

修 士 課 程

教科 No.	4M01	授業科目	芸術学特論	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	吉田雅子			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 芸術学や美術史に関する専門的なアプローチを通して、作品に対する理解力や考察力を高める。知識を獲得するだけでなく、作品を実際に観察して考察する。時間があればモデル等を作成し、具体的に理解する。</p> <p>【授業概要】 前半は、桃山から昭和に作られた衣料をとりあげ、後半は縄文から奈良にかけて作られた織物をみてゆく。作例を画像で紹介し、概要を解説する。本学の古い織物裂を学生が観察する機会を設ける。さらに紙でモデルを作成し、織物のつくりを理解する一助としたい。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 縄文・弥生・古墳時代の染織品</td> </tr> <tr> <td>2. 辻が花</td> <td>10. 平織、縞、格子</td> </tr> <tr> <td>3. 辻が花</td> <td>11. 綾織</td> </tr> <tr> <td>4. 慶長・寛文の小袖</td> <td>12. 経錦</td> </tr> <tr> <td>5. 寛文の小袖</td> <td>13. まとめ</td> </tr> <tr> <td>6. 友禅染 - 1</td> <td>14. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 友禅染 - 2</td> <td>15. 課題（又はレポート）の紹介</td> </tr> <tr> <td>8. 明治・大正・昭和の着物</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 出席、課題（又はレポート）の内容、課題（又はレポート）の紹介を総合して評価します。</p> <p>【履修上の注意】 授業の後半に、学生が課題（又はレポート）を提出します。授業の最終日に、提出物を返却します。この時、提出物の内容を各自が簡単に紹介する時間を設けますので、時間通り出席のこと。</p> <p>【教科書】 教科書は使用しない。プリントを配布する。</p> <p>【参考書等】 必要に応じて授業中に指示する。</p> <p>※備考 染織の知識がない方も楽しく学べるように、基礎からゆっくりやってゆきます。染織に興味がある方は、専攻にかかわらず歓迎します。</p>						1. オリエンテーション	9. 縄文・弥生・古墳時代の染織品	2. 辻が花	10. 平織、縞、格子	3. 辻が花	11. 綾織	4. 慶長・寛文の小袖	12. 経錦	5. 寛文の小袖	13. まとめ	6. 友禅染 - 1	14. まとめ	7. 友禅染 - 2	15. 課題（又はレポート）の紹介	8. 明治・大正・昭和の着物	
1. オリエンテーション	9. 縄文・弥生・古墳時代の染織品																				
2. 辻が花	10. 平織、縞、格子																				
3. 辻が花	11. 綾織																				
4. 慶長・寛文の小袖	12. 経錦																				
5. 寛文の小袖	13. まとめ																				
6. 友禅染 - 1	14. まとめ																				
7. 友禅染 - 2	15. 課題（又はレポート）の紹介																				
8. 明治・大正・昭和の着物																					

教科 No.	4M02	授業科目	感性論	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	加須屋明子			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 身体的次元から、精神的次元にいたるまで、広範な感性の働きを理論的・哲学的に考察すると同時に、みずからテーマを定め、研究発表を通じて主体的に議論に参加し、現代社会における具体的現象も主題化していく。</p> <p>【授業概要】 演習形式による総合制作・理論研究。美学・芸術理論上の諸問題に関して一定のテーマを設定し言語化すると同時に、他者とのコミュニケーションを通じて共通の主題を深化させる。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 問奏</td> </tr> <tr> <td>2. いま、話そう1</td> <td>10. 演習発表と議論</td> </tr> <tr> <td>3. いま、話そう2</td> <td>11. 演習発表と議論</td> </tr> <tr> <td>4. からだへの瞑想</td> <td>12. 演習発表と議論</td> </tr> <tr> <td>5. 演習発表と議論</td> <td>13. 演習発表と議論</td> </tr> <tr> <td>6. 演習発表と議論</td> <td>14. まとめ1</td> </tr> <tr> <td>7. 演習発表と議論</td> <td>15. まとめ2</td> </tr> <tr> <td>8. 演習発表と議論</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 演習発表。出席も考慮する。</p>						1. ガイダンス	9. 問奏	2. いま、話そう1	10. 演習発表と議論	3. いま、話そう2	11. 演習発表と議論	4. からだへの瞑想	12. 演習発表と議論	5. 演習発表と議論	13. 演習発表と議論	6. 演習発表と議論	14. まとめ1	7. 演習発表と議論	15. まとめ2	8. 演習発表と議論	
1. ガイダンス	9. 問奏																				
2. いま、話そう1	10. 演習発表と議論																				
3. いま、話そう2	11. 演習発表と議論																				
4. からだへの瞑想	12. 演習発表と議論																				
5. 演習発表と議論	13. 演習発表と議論																				
6. 演習発表と議論	14. まとめ1																				
7. 演習発表と議論	15. まとめ2																				
8. 演習発表と議論																					

教科 No.	4M03	授業科目	日本絵画史特論	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	田島達也			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 日本絵画史について、設定されたテーマに関する多角的な研究を学ぶことで、その分野についての知見を深め、自ら問題を掘り下げてゆく力を養う。</p> <p>【授業概要】 「画論を読む」絵画について書かれた芸術論や画人伝、技法書などを総称して画論と呼ぶ。さまざまな芸術観を学ぶことで自分の芸術観を客観的に見られるようになることを目指す。今年は江戸時代の絵画と近代の日本画についての文献を受講者にも実際に読んでもらう。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 狩野派の画論</td> <td>9. 浮世絵の画論</td> </tr> <tr> <td>2. 狩野派の画論</td> <td>10. 浮世絵の画論</td> </tr> <tr> <td>3. 狩野派の画論</td> <td>11. その他の画論</td> </tr> <tr> <td>4. 狩野派の画論</td> <td>12. その他の画論</td> </tr> <tr> <td>5. 文人画の画論</td> <td>13. 各派画論比較</td> </tr> <tr> <td>6. 文人画の画論</td> <td>14. 近代の画論</td> </tr> <tr> <td>7. 文人画の画論</td> <td>15. 近代の画論</td> </tr> <tr> <td>8. 文人画の画論</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 平常点。</p>						1. 狩野派の画論	9. 浮世絵の画論	2. 狩野派の画論	10. 浮世絵の画論	3. 狩野派の画論	11. その他の画論	4. 狩野派の画論	12. その他の画論	5. 文人画の画論	13. 各派画論比較	6. 文人画の画論	14. 近代の画論	7. 文人画の画論	15. 近代の画論	8. 文人画の画論	
1. 狩野派の画論	9. 浮世絵の画論																				
2. 狩野派の画論	10. 浮世絵の画論																				
3. 狩野派の画論	11. その他の画論																				
4. 狩野派の画論	12. その他の画論																				
5. 文人画の画論	13. 各派画論比較																				
6. 文人画の画論	14. 近代の画論																				
7. 文人画の画論	15. 近代の画論																				
8. 文人画の画論																					

教科 No.	4M04	授業科目	日本彫刻史特論	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	礪波恵昭			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 日本彫刻史の最新の研究成果を詳細に学ぶことによって、日本彫刻史研究の多彩な方法を知るとともに、創作活動に応用し、芸術研究の錬成に資することを目標とする。</p> <p>【授業概要】 「平安時代前期の彫刻」 9世紀を中心とする平安時代前期の仏教彫刻は、乾漆併用の豊麗なほとけや切れ味鋭い木彫の作品など、多様な展開を見せる時期である。その形成と成立、展開について、代表作例を中心に詳論する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 木彫像 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. 仏像の基礎知識</td> <td>10. 木彫像 (3)</td> </tr> <tr> <td>3. 奈良時代以前の日本彫刻史</td> <td>11. 木彫像 (4)</td> </tr> <tr> <td>4. 乾漆併用像 (1)</td> <td>12. 9世紀末の展開 (1)</td> </tr> <tr> <td>5. 乾漆併用像 (2)</td> <td>13. 9世紀末の展開 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 乾漆併用像 (3)</td> <td>14. 10世紀初めの展開</td> </tr> <tr> <td>7. 乾漆併用像 (4)</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. 木彫像 (1)</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 学期末に課すレポートの成績を重視し、出席状況も加味して評価する。</p> <p>【履修上の注意】 予備知識は特に必要としない</p> <p>【教科書】 なし。必要資料は全て配布する。</p> <p>【参考書等】 特にないが、必要があれば授業中に指示する。</p>						1. イントロダクション	9. 木彫像 (2)	2. 仏像の基礎知識	10. 木彫像 (3)	3. 奈良時代以前の日本彫刻史	11. 木彫像 (4)	4. 乾漆併用像 (1)	12. 9世紀末の展開 (1)	5. 乾漆併用像 (2)	13. 9世紀末の展開 (2)	6. 乾漆併用像 (3)	14. 10世紀初めの展開	7. 乾漆併用像 (4)	15. 総括	8. 木彫像 (1)	
1. イントロダクション	9. 木彫像 (2)																				
2. 仏像の基礎知識	10. 木彫像 (3)																				
3. 奈良時代以前の日本彫刻史	11. 木彫像 (4)																				
4. 乾漆併用像 (1)	12. 9世紀末の展開 (1)																				
5. 乾漆併用像 (2)	13. 9世紀末の展開 (2)																				
6. 乾漆併用像 (3)	14. 10世紀初めの展開																				
7. 乾漆併用像 (4)	15. 総括																				
8. 木彫像 (1)																					

教科 No.	4M05	授業科目	東洋美術史特論	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	定金計次			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 インド美術を中心とした東洋美術史に関する高度な専門的研究の成果を学びながら、今日までの研究状況を理解しつつ、新たな研究方法を習得し、東洋美術に対する専門的な理解と洞察を深める。</p> <p>【授業概要】 インド後期仏教石窟の彫刻研究：5世紀から8世紀にかけて展開し、特に6世紀後半に多くの優れた作例が生み出されたインド後期仏教石窟における彫刻を取り上げ、主題と様式の両面から発展の仕方と特質について考察する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. インド後期仏教石窟について；インド古代・中世の仏教について</td> <td>9. エローラ仏教窟の彫刻 (3)：ポスト・グプタ時代3</td> </tr> <tr> <td>2. アジャンター石窟の彫刻</td> <td>10. エローラ仏教窟の彫刻 (4)：ポスト・グプタ時代4</td> </tr> <tr> <td>3. バーグ石窟の彫刻；アウランガーバード石窟の彫刻 (1)：グプタ時代末</td> <td>11. エローラ仏教窟の彫刻 (5)：中世前期1</td> </tr> <tr> <td>4. アウランガーバード石窟の彫刻 (2)：ポスト・グプタ時代1</td> <td>12. エローラ仏教窟の彫刻 (6)：中世前期2</td> </tr> <tr> <td>5. アウランガーバード石窟の彫刻 (3)：ポスト・グプタ時代2</td> <td>13. エローラ仏教窟の彫刻 (7)：中世前期3</td> </tr> <tr> <td>6. アウランガーバード石窟の彫刻 (4)：ポスト・グプタ時代3</td> <td>14. (予備)</td> </tr> <tr> <td>7. エローラ仏教窟の彫刻 (1)：ポスト・グプタ時代1</td> <td>15. (予備)</td> </tr> <tr> <td>8. エローラ仏教窟の彫刻 (2)：ポスト・グプタ時代2</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 期末試験（あらかじめ公表した課題について論述して貰う）の結果、および出席回数を主にした平常点を総合して評価する。</p> <p>【履修上の注意】 既存の書物に従って講述するような授業ではないから、欠席すると授業の流れを把握し難くなる虞が大きい。毎回出席すること。専門的知識は特に必要としない。</p> <p>【教科書】 授業中に紹介する。</p>						1. インド後期仏教石窟について；インド古代・中世の仏教について	9. エローラ仏教窟の彫刻 (3)：ポスト・グプタ時代3	2. アジャンター石窟の彫刻	10. エローラ仏教窟の彫刻 (4)：ポスト・グプタ時代4	3. バーグ石窟の彫刻；アウランガーバード石窟の彫刻 (1)：グプタ時代末	11. エローラ仏教窟の彫刻 (5)：中世前期1	4. アウランガーバード石窟の彫刻 (2)：ポスト・グプタ時代1	12. エローラ仏教窟の彫刻 (6)：中世前期2	5. アウランガーバード石窟の彫刻 (3)：ポスト・グプタ時代2	13. エローラ仏教窟の彫刻 (7)：中世前期3	6. アウランガーバード石窟の彫刻 (4)：ポスト・グプタ時代3	14. (予備)	7. エローラ仏教窟の彫刻 (1)：ポスト・グプタ時代1	15. (予備)	8. エローラ仏教窟の彫刻 (2)：ポスト・グプタ時代2	
1. インド後期仏教石窟について；インド古代・中世の仏教について	9. エローラ仏教窟の彫刻 (3)：ポスト・グプタ時代3																				
2. アジャンター石窟の彫刻	10. エローラ仏教窟の彫刻 (4)：ポスト・グプタ時代4																				
3. バーグ石窟の彫刻；アウランガーバード石窟の彫刻 (1)：グプタ時代末	11. エローラ仏教窟の彫刻 (5)：中世前期1																				
4. アウランガーバード石窟の彫刻 (2)：ポスト・グプタ時代1	12. エローラ仏教窟の彫刻 (6)：中世前期2																				
5. アウランガーバード石窟の彫刻 (3)：ポスト・グプタ時代2	13. エローラ仏教窟の彫刻 (7)：中世前期3																				
6. アウランガーバード石窟の彫刻 (4)：ポスト・グプタ時代3	14. (予備)																				
7. エローラ仏教窟の彫刻 (1)：ポスト・グプタ時代1	15. (予備)																				
8. エローラ仏教窟の彫刻 (2)：ポスト・グプタ時代2																					

教科 No.	4M06	授業科目	西洋美術史特論	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	潮江宏三			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 西洋美術の多様な展開の事例から専門的な知識と見方を身につけ、西洋美術理解の水準を高める。</p> <p>【授業概要】 ブレイクの『ヨブ記』銅版画挿絵集をめぐって一詩人・画家・銅版画家であったブレイクの芸術的・思想的成果の集大成である晩年の傑作『ヨブ記』の意義をさまざまな観点から論じる。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 『ヨブ記』のテキストと美術に表された『ヨブ記』</td> <td>9. 初期銅版画の改版の意味をめぐって—ブレイクの銅版画芸術論2</td> </tr> <tr> <td>2. 美術に表された『ヨブ記』</td> <td>10. 『ヨブ記』銅版画挿絵集1</td> </tr> <tr> <td>3. ブレイクの時代の『ヨブ記』の読まれ方</td> <td>11. 『ヨブ記』銅版画挿絵集2</td> </tr> <tr> <td>4. ブレイク初期の聖書画1</td> <td>12. 『ヨブ記』銅版画挿絵集3</td> </tr> <tr> <td>5. ブレイク初期の聖書画2</td> <td>13. 『ヨブ記』銅版画挿絵集4</td> </tr> <tr> <td>6. バツのための聖書画の中の『ヨブ記』</td> <td>14. 『ヨブ記』と晩年の絵画との関係</td> </tr> <tr> <td>7. 水彩による『ヨブ記』挿絵集</td> <td>15. ダンテ『神曲』銅版画集</td> </tr> <tr> <td>8. 初期銅版画の改版の意味をめぐって—ブレイクの銅版画芸術論1</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 研究レポートを課し、出席点を加味して評価する。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>【教科書】 特に用いない。</p> <p>【参考書等】 授業中に紹介する。</p>						1. 『ヨブ記』のテキストと美術に表された『ヨブ記』	9. 初期銅版画の改版の意味をめぐって—ブレイクの銅版画芸術論2	2. 美術に表された『ヨブ記』	10. 『ヨブ記』銅版画挿絵集1	3. ブレイクの時代の『ヨブ記』の読まれ方	11. 『ヨブ記』銅版画挿絵集2	4. ブレイク初期の聖書画1	12. 『ヨブ記』銅版画挿絵集3	5. ブレイク初期の聖書画2	13. 『ヨブ記』銅版画挿絵集4	6. バツのための聖書画の中の『ヨブ記』	14. 『ヨブ記』と晩年の絵画との関係	7. 水彩による『ヨブ記』挿絵集	15. ダンテ『神曲』銅版画集	8. 初期銅版画の改版の意味をめぐって—ブレイクの銅版画芸術論1	
1. 『ヨブ記』のテキストと美術に表された『ヨブ記』	9. 初期銅版画の改版の意味をめぐって—ブレイクの銅版画芸術論2																				
2. 美術に表された『ヨブ記』	10. 『ヨブ記』銅版画挿絵集1																				
3. ブレイクの時代の『ヨブ記』の読まれ方	11. 『ヨブ記』銅版画挿絵集2																				
4. ブレイク初期の聖書画1	12. 『ヨブ記』銅版画挿絵集3																				
5. ブレイク初期の聖書画2	13. 『ヨブ記』銅版画挿絵集4																				
6. バツのための聖書画の中の『ヨブ記』	14. 『ヨブ記』と晩年の絵画との関係																				
7. 水彩による『ヨブ記』挿絵集	15. ダンテ『神曲』銅版画集																				
8. 初期銅版画の改版の意味をめぐって—ブレイクの銅版画芸術論1																					

教科 No.	4M07	授業科目	美術史特論 1	単位数	集中30時間 2単位																
担当教員	○河野道房			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 美術史学の研究方法を、東アジア美術史を例に学習し、作品資料と文献資料の取り扱い方法を理解し、それに習熟すること。</p> <p>【授業概要】 今年度は、東アジア美術の中心である中国の、山水画の歴史を考察する。具体的には、漢代から魏晉南北朝時代にかけて成立した山水表現、それらが唐代から北宋にかけて確立した山水画が南宋、元明清とどのように変化していくのかを、魏晉南北朝・隋唐・五代北宋を中心に概観する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業概要と説明（ガイダンス）：作品研究とその方法論</td> <td>9. 唐末五代の山水画：「逸品画風」と水墨画の成立、荆浩・関同等 2</td> </tr> <tr> <td>2. 古代中国の絵画観：中国の絵画に対する考え方（現代との差異）</td> <td>10. 唐末五代の山水画：「逸品画風」と水墨画の成立、荆浩・関同等 3</td> </tr> <tr> <td>3. 漢・魏晉南北朝の山水表現：画像碑、宗炳の山水画論 1</td> <td>11. 北宋の山水画：李成、范寛、郭熙 南宋・元明清への展開 1</td> </tr> <tr> <td>4. 漢・魏晉南北朝の山水表現：画像碑、宗炳の山水画論 2</td> <td>12. 北宋の山水画：李成、范寛、郭熙 南宋・元明清への展開 2</td> </tr> <tr> <td>5. 漢・魏晉南北朝の山水表現：画像碑、宗炳の山水画論 3</td> <td>13. 北宋の山水画：李成、范寛、郭熙 南宋・元明清への展開 3</td> </tr> <tr> <td>6. 隋唐時代の山水表現：墳墓壁画と敦煌壁画、「山水之変」 1</td> <td>14. 北宋の山水画：李成、范寛、郭熙 南宋・元明清への展開 4</td> </tr> <tr> <td>7. 隋唐時代の山水表現：墳墓壁画と敦煌壁画、「山水之変」 2</td> <td>15. まとめ：東アジアにおける山水画の意義</td> </tr> <tr> <td>8. 唐末五代の山水画：「逸品画風」と水墨画の成立、荆浩・関同等 1</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 平常点（出席および随時行う小テスト）5割、期末レポート（4,000字程度）5割で評価する。</p> <p>【履修上の注意】 中国文化・美術に対して関心を持っておくこと。</p> <p>【教科書】 なし。プリント資料を随時、配布する。</p> <p>【参考書等】 授業中に適宜指示する。</p> <p>※備考 毎回、配付資料とスライドを中心に授業を進める。授業終了時に、授業内容をまとめる小テストを随時行う。</p>						1. 授業概要と説明（ガイダンス）：作品研究とその方法論	9. 唐末五代の山水画：「逸品画風」と水墨画の成立、荆浩・関同等 2	2. 古代中国の絵画観：中国の絵画に対する考え方（現代との差異）	10. 唐末五代の山水画：「逸品画風」と水墨画の成立、荆浩・関同等 3	3. 漢・魏晉南北朝の山水表現：画像碑、宗炳の山水画論 1	11. 北宋の山水画：李成、范寛、郭熙 南宋・元明清への展開 1	4. 漢・魏晉南北朝の山水表現：画像碑、宗炳の山水画論 2	12. 北宋の山水画：李成、范寛、郭熙 南宋・元明清への展開 2	5. 漢・魏晉南北朝の山水表現：画像碑、宗炳の山水画論 3	13. 北宋の山水画：李成、范寛、郭熙 南宋・元明清への展開 3	6. 隋唐時代の山水表現：墳墓壁画と敦煌壁画、「山水之変」 1	14. 北宋の山水画：李成、范寛、郭熙 南宋・元明清への展開 4	7. 隋唐時代の山水表現：墳墓壁画と敦煌壁画、「山水之変」 2	15. まとめ：東アジアにおける山水画の意義	8. 唐末五代の山水画：「逸品画風」と水墨画の成立、荆浩・関同等 1	
1. 授業概要と説明（ガイダンス）：作品研究とその方法論	9. 唐末五代の山水画：「逸品画風」と水墨画の成立、荆浩・関同等 2																				
2. 古代中国の絵画観：中国の絵画に対する考え方（現代との差異）	10. 唐末五代の山水画：「逸品画風」と水墨画の成立、荆浩・関同等 3																				
3. 漢・魏晉南北朝の山水表現：画像碑、宗炳の山水画論 1	11. 北宋の山水画：李成、范寛、郭熙 南宋・元明清への展開 1																				
4. 漢・魏晉南北朝の山水表現：画像碑、宗炳の山水画論 2	12. 北宋の山水画：李成、范寛、郭熙 南宋・元明清への展開 2																				
5. 漢・魏晉南北朝の山水表現：画像碑、宗炳の山水画論 3	13. 北宋の山水画：李成、范寛、郭熙 南宋・元明清への展開 3																				
6. 隋唐時代の山水表現：墳墓壁画と敦煌壁画、「山水之変」 1	14. 北宋の山水画：李成、范寛、郭熙 南宋・元明清への展開 4																				
7. 隋唐時代の山水表現：墳墓壁画と敦煌壁画、「山水之変」 2	15. まとめ：東アジアにおける山水画の意義																				
8. 唐末五代の山水画：「逸品画風」と水墨画の成立、荆浩・関同等 1																					

教科 No.	4M08	授業科目	美術史特論 2	単位数	集中30時間 2単位																
担当教員	○大長智広			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 美術／工芸というヒエラルキーが確立した近代の陶磁を中心とした工芸をめぐる言説を理解するとともに、現代にいたる工芸表現に対する考察力を高める。</p> <p>【授業概要】 近年、工芸に関する議論が活発に成されるようになってきた。そこには、近代に西洋美術概念を導入する中で形成された「工芸」という概念を通じて、日本の美術制度の体系を暴き出そうとする意図が指摘できる。 本授業では工芸概念の成立とその後の展開を手がかりに、陶磁を中心に現在の工芸が置かれている現況を考察する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 現代工芸論の現在</td> <td>9. 民芸運動と個人作家</td> </tr> <tr> <td>2. 「日本現代陶芸史」という幻想</td> <td>10. 伝統概念の成立</td> </tr> <tr> <td>3. 工芸概念の成立</td> <td>11. 重要無形文化財保持者（人間国宝）の陶芸</td> </tr> <tr> <td>4. 万博出品作に見る近代工芸</td> <td>12. 走泥社とオブジェ焼</td> </tr> <tr> <td>5. 1910年代にみる工芸－浅井忠の実践－</td> <td>13. ジャンル化された「伝統」と「前衛」</td> </tr> <tr> <td>6. 1920から30年代の美術と工芸</td> <td>14. 日本陶芸の国際化－1960年代から70年代にかけての国際陶芸展を中心に</td> </tr> <tr> <td>7. 個人作家の登場－富本憲吉</td> <td>15. 1980年代のクレイワーク</td> </tr> <tr> <td>8. 民芸という思想</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 授業時の課題、期末レポート、出席を総合的に評価</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>【教科書】 資料を無料配布</p> <p>【参考書等】 授業中に紹介</p>						1. 現代工芸論の現在	9. 民芸運動と個人作家	2. 「日本現代陶芸史」という幻想	10. 伝統概念の成立	3. 工芸概念の成立	11. 重要無形文化財保持者（人間国宝）の陶芸	4. 万博出品作に見る近代工芸	12. 走泥社とオブジェ焼	5. 1910年代にみる工芸－浅井忠の実践－	13. ジャンル化された「伝統」と「前衛」	6. 1920から30年代の美術と工芸	14. 日本陶芸の国際化－1960年代から70年代にかけての国際陶芸展を中心に	7. 個人作家の登場－富本憲吉	15. 1980年代のクレイワーク	8. 民芸という思想	
1. 現代工芸論の現在	9. 民芸運動と個人作家																				
2. 「日本現代陶芸史」という幻想	10. 伝統概念の成立																				
3. 工芸概念の成立	11. 重要無形文化財保持者（人間国宝）の陶芸																				
4. 万博出品作に見る近代工芸	12. 走泥社とオブジェ焼																				
5. 1910年代にみる工芸－浅井忠の実践－	13. ジャンル化された「伝統」と「前衛」																				
6. 1920から30年代の美術と工芸	14. 日本陶芸の国際化－1960年代から70年代にかけての国際陶芸展を中心に																				
7. 個人作家の登場－富本憲吉	15. 1980年代のクレイワーク																				
8. 民芸という思想																					

教科 No.	4M09	授業科目	デザイン学特論	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	渡辺眞			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 デザイン製品の背後にあるデザイナーの考え方，デザイン論を知ることによって，自分の考え方を深めることを目標とする。</p> <p>【授業概要】 毎回デザイナーを取り上げ，デザイナーのデザインあるいはデザイン論を読み解く。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 主旨説明</td> <td>9. エッソーレ・ソットサス</td> </tr> <tr> <td>2. 亀倉雄策</td> <td>10. 倉俣史朗</td> </tr> <tr> <td>3. 柳宗理</td> <td>11. 佐藤可士和</td> </tr> <tr> <td>4. チャールズ・イームズ</td> <td>12. 深澤直人</td> </tr> <tr> <td>5. 田中一光</td> <td>13. 原研哉</td> </tr> <tr> <td>6. ディーター・ラムズ</td> <td>14. ナガオカケンメイ</td> </tr> <tr> <td>7. 福田繁雄</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 松永真</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 出席，小論文，レポート試験等を総合的に評価する。</p>						1. 主旨説明	9. エッソーレ・ソットサス	2. 亀倉雄策	10. 倉俣史朗	3. 柳宗理	11. 佐藤可士和	4. チャールズ・イームズ	12. 深澤直人	5. 田中一光	13. 原研哉	6. ディーター・ラムズ	14. ナガオカケンメイ	7. 福田繁雄	15. まとめ	8. 松永真	
1. 主旨説明	9. エッソーレ・ソットサス																				
2. 亀倉雄策	10. 倉俣史朗																				
3. 柳宗理	11. 佐藤可士和																				
4. チャールズ・イームズ	12. 深澤直人																				
5. 田中一光	13. 原研哉																				
6. ディーター・ラムズ	14. ナガオカケンメイ																				
7. 福田繁雄	15. まとめ																				
8. 松永真																					

教科 No.	4M10	授業科目	工芸史特論	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	伊東徹夫			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 緑色や青色の釉薬の陶磁，青磁についての深い知識を得る。青磁の意義について考察する。</p> <p>【授業概要】 中国に始まる青磁の歴史を概観する。中国以外の地域の青磁にも目を向ける。日本の近現代の作家の青磁も紹介し，陶芸における青磁の意義を論じる。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 導入講義</td> <td>9. 朝鮮半島の青磁2</td> </tr> <tr> <td>2. 中国の灰釉</td> <td>10. ヨーロッパの青磁</td> </tr> <tr> <td>3. 中国の青磁1</td> <td>11. 江戸時代の青磁</td> </tr> <tr> <td>4. 中国の青磁2</td> <td>12. 近代日本における青磁</td> </tr> <tr> <td>5. 中国の青磁3</td> <td>13. 現代日本における青磁</td> </tr> <tr> <td>6. 中国の青磁4</td> <td>14. 総括と展望1</td> </tr> <tr> <td>7. 中国の青磁5</td> <td>15. 総括と展望2</td> </tr> <tr> <td>8. 朝鮮半島の青磁1</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 出席率 50%，レポート 50%を併せて評価する。詳細は，第1回の講義で説明する。</p> <p>【履修上の注意】 第1回の導入講義を必ず受講すること。</p>						1. 導入講義	9. 朝鮮半島の青磁2	2. 中国の灰釉	10. ヨーロッパの青磁	3. 中国の青磁1	11. 江戸時代の青磁	4. 中国の青磁2	12. 近代日本における青磁	5. 中国の青磁3	13. 現代日本における青磁	6. 中国の青磁4	14. 総括と展望1	7. 中国の青磁5	15. 総括と展望2	8. 朝鮮半島の青磁1	
1. 導入講義	9. 朝鮮半島の青磁2																				
2. 中国の灰釉	10. ヨーロッパの青磁																				
3. 中国の青磁1	11. 江戸時代の青磁																				
4. 中国の青磁2	12. 近代日本における青磁																				
5. 中国の青磁3	13. 現代日本における青磁																				
6. 中国の青磁4	14. 総括と展望1																				
7. 中国の青磁5	15. 総括と展望2																				
8. 朝鮮半島の青磁1																					

教科 No.	4M11	授業科目	美的人間形成論	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	三木博			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 今日の人間形成の根幹は、深く美的感性によって影響され、きわめて感性化されたものとなっている。改めて美的経験のあり方について、近代以降の美的人間形成の歴史を辿りながらその理解を深める。</p> <p>【授業概要】 感性と人間形成、美学と教育学との接点に焦点を絞りながら、芸術と子どものかかわり、子どもの美的経験の独自のあり方、日本の美的感性の生成などについて考察する。視聴覚資料による豊富で具体的なイメージにもとづいて、人間の美的形成について理解を深めていく。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 明治の絵画教育－京都府画学校－</td> </tr> <tr> <td>2. 「メレンコリア」の解説 －A・デュラ－</td> <td>10. 時代と感性－歴史のなかの美的感性－</td> </tr> <tr> <td>3. 動物学と人間学</td> <td>11. 日本の感性Ⅰ－陰翳礼賛－</td> </tr> <tr> <td>4. 絵本の人間学</td> <td>12. 日本の感性Ⅱ－「いき」の構造－</td> </tr> <tr> <td>5. 岩井俊雄－目ざめよ身体 感覚の宇宙－</td> <td>13. 錬金術の図像学－C・G・ユンガー</td> </tr> <tr> <td>6. ロマン主義の子どもたち－「子ども」の誕生と喪失－</td> <td>14. 映像美の政治化－リーフェンシュタール「オリンピア」－</td> </tr> <tr> <td>7. レッジョ・エミリアにおける美的教育</td> <td>15. 試験</td> </tr> <tr> <td>8. リズム論－生命と文化を貫くリズム－</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 小レポートの提出および期末試験</p>						1. オリエンテーション	9. 明治の絵画教育－京都府画学校－	2. 「メレンコリア」の解説 －A・デュラ－	10. 時代と感性－歴史のなかの美的感性－	3. 動物学と人間学	11. 日本の感性Ⅰ－陰翳礼賛－	4. 絵本の人間学	12. 日本の感性Ⅱ－「いき」の構造－	5. 岩井俊雄－目ざめよ身体 感覚の宇宙－	13. 錬金術の図像学－C・G・ユンガー	6. ロマン主義の子どもたち－「子ども」の誕生と喪失－	14. 映像美の政治化－リーフェンシュタール「オリンピア」－	7. レッジョ・エミリアにおける美的教育	15. 試験	8. リズム論－生命と文化を貫くリズム－	
1. オリエンテーション	9. 明治の絵画教育－京都府画学校－																				
2. 「メレンコリア」の解説 －A・デュラ－	10. 時代と感性－歴史のなかの美的感性－																				
3. 動物学と人間学	11. 日本の感性Ⅰ－陰翳礼賛－																				
4. 絵本の人間学	12. 日本の感性Ⅱ－「いき」の構造－																				
5. 岩井俊雄－目ざめよ身体 感覚の宇宙－	13. 錬金術の図像学－C・G・ユンガー																				
6. ロマン主義の子どもたち－「子ども」の誕生と喪失－	14. 映像美の政治化－リーフェンシュタール「オリンピア」－																				
7. レッジョ・エミリアにおける美的教育	15. 試験																				
8. リズム論－生命と文化を貫くリズム－																					

教科 No.	4M12	授業科目	マルチメディア文化論	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	横田学			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 マルチメディアの利用分野は飛躍的に拡大している。本講では、マルチメディア文化の意味とその可能性について、受講者自らが多面的・総合的に考えるとともに、主体的にその課題や問題点を探る。</p> <p>【授業概要】 授業は講義室での授業・ディスカッションと、ネットワーク上のWebページ、掲示板や電子メール等を積極的に活用した遠隔授業を組み合わせる。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス・情報とは何か（講義）</td> <td>9. マルチメディアと芸術文化(4)（オフライン・ディスカッション3）</td> </tr> <tr> <td>2. メディアの進化と活用（オフライン・ディスカッション1）</td> <td>10. これからの社会とマルチメディア(1) ※遠隔授業として実施</td> </tr> <tr> <td>3. 現代社会とマルチメディア(1) ※遠隔授業として実施</td> <td>11. これからの社会とマルチメディア(2) ※遠隔授業として実施</td> </tr> <tr> <td>4. 現代社会とマルチメディア(2) ※遠隔授業として実施</td> <td>12. ネットワークを活用したアイデアの実現(1) ※遠隔授業として実施</td> </tr> <tr> <td>5. 現代社会とマルチメディア(3)（オフライン・ディスカッション2）</td> <td>13. ネットワークを活用したアイデアの実現(2) ※遠隔授業として実施</td> </tr> <tr> <td>6. マルチメディアと芸術文化(1) ※遠隔授業として実施</td> <td>14. ネットワークを活用したアイデアの実現(3) ※遠隔授業として実施</td> </tr> <tr> <td>7. マルチメディアと芸術文化(2) ※遠隔授業として実施</td> <td>15. まとめ（オフライン・ディスカッション4）</td> </tr> <tr> <td>8. マルチメディアと芸術文化(3) ※遠隔授業として実施</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 インターネットを使った「遠隔授業」では、週2回以上のWebページのチェック及び掲示板等への書き込みが必須です。また、講義室でのオフライン・ディスカッションへの出席は単位取得に必須です。</p> <p>【履修上の注意】 第1回目及び2回目の授業で、インターネットを活用した「遠隔授業」の方法等について説明するため必ず出席すること。履修にあたっては、研究室または自宅から日常的にインターネットに接続できる環境が必須となる。</p> <p>【参考書等】</p> <p>※備考 受講に際し、コンピュータ等の専門的な知識・技能等は特に必要としない。講義室でのディスカッション（オフライン・ディスカッション）の参加は単位取得に必須です。</p>						1. ガイダンス・情報とは何か（講義）	9. マルチメディアと芸術文化(4)（オフライン・ディスカッション3）	2. メディアの進化と活用（オフライン・ディスカッション1）	10. これからの社会とマルチメディア(1) ※遠隔授業として実施	3. 現代社会とマルチメディア(1) ※遠隔授業として実施	11. これからの社会とマルチメディア(2) ※遠隔授業として実施	4. 現代社会とマルチメディア(2) ※遠隔授業として実施	12. ネットワークを活用したアイデアの実現(1) ※遠隔授業として実施	5. 現代社会とマルチメディア(3)（オフライン・ディスカッション2）	13. ネットワークを活用したアイデアの実現(2) ※遠隔授業として実施	6. マルチメディアと芸術文化(1) ※遠隔授業として実施	14. ネットワークを活用したアイデアの実現(3) ※遠隔授業として実施	7. マルチメディアと芸術文化(2) ※遠隔授業として実施	15. まとめ（オフライン・ディスカッション4）	8. マルチメディアと芸術文化(3) ※遠隔授業として実施	
1. ガイダンス・情報とは何か（講義）	9. マルチメディアと芸術文化(4)（オフライン・ディスカッション3）																				
2. メディアの進化と活用（オフライン・ディスカッション1）	10. これからの社会とマルチメディア(1) ※遠隔授業として実施																				
3. 現代社会とマルチメディア(1) ※遠隔授業として実施	11. これからの社会とマルチメディア(2) ※遠隔授業として実施																				
4. 現代社会とマルチメディア(2) ※遠隔授業として実施	12. ネットワークを活用したアイデアの実現(1) ※遠隔授業として実施																				
5. 現代社会とマルチメディア(3)（オフライン・ディスカッション2）	13. ネットワークを活用したアイデアの実現(2) ※遠隔授業として実施																				
6. マルチメディアと芸術文化(1) ※遠隔授業として実施	14. ネットワークを活用したアイデアの実現(3) ※遠隔授業として実施																				
7. マルチメディアと芸術文化(2) ※遠隔授業として実施	15. まとめ（オフライン・ディスカッション4）																				
8. マルチメディアと芸術文化(3) ※遠隔授業として実施																					

教科 No.	4M13	授業科目	芸術学演習 1 (原書講読)	単位数	週1コマ 1単位
担当教員	○春木有亮			開講学期	前期
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上	
<p>詳細については掲示にて周知します。</p>					

教科 No.	4M14	授業科目	芸術学演習 2 (原書講読)	単位数	週1コマ 1単位
担当教員	未定			開講学期	後期
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上	
<p>詳細については掲示にて周知します。</p>					

教科 No.	4M15	授業科目	保存科学	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	高林弘実			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
【授業目標】 文化財の保存修復をする上で必要となる「保存科学」の基礎的な知識を修得する。																					
【授業概要】 「保存科学」は、文化財の構造・材質およびそれらの劣化現象を科学的に解明し、その知見を文化財の保存と修理に役立たせることを目的として発展してきた学問領域です。本講義では、「保存科学」の概説をします。																					
【授業内容】																					
<table border="0"> <tr> <td>1. 文化と文化財</td> <td>9. 自然科学的手法を用いた文化財研究 ②</td> </tr> <tr> <td>2. 文化財と自然科学</td> <td>10. 自然科学的手法を用いた文化財研究 ③</td> </tr> <tr> <td>3. 文化財を構成する材料とその物質的なりたち</td> <td>11. 文化財の劣化要因① 温湿度</td> </tr> <tr> <td>4. 文化財の自然科学的調査法 光学的手法</td> <td>12. 文化財の劣化要因② 光・空気汚染</td> </tr> <tr> <td>5. 文化財の自然科学的調査法 分光分析</td> <td>13. 文化財の劣化要因③ 生物</td> </tr> <tr> <td>6. 文化財の自然科学的調査法 質量分析</td> <td>14. 文化財の劣化要因④ 振動・災害</td> </tr> <tr> <td>7. 文化財の自然科学的調査法 クロマトグラフィー</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 自然科学的手法を用いた文化財研究 ①</td> <td></td> </tr> </table>						1. 文化と文化財	9. 自然科学的手法を用いた文化財研究 ②	2. 文化財と自然科学	10. 自然科学的手法を用いた文化財研究 ③	3. 文化財を構成する材料とその物質的なりたち	11. 文化財の劣化要因① 温湿度	4. 文化財の自然科学的調査法 光学的手法	12. 文化財の劣化要因② 光・空気汚染	5. 文化財の自然科学的調査法 分光分析	13. 文化財の劣化要因③ 生物	6. 文化財の自然科学的調査法 質量分析	14. 文化財の劣化要因④ 振動・災害	7. 文化財の自然科学的調査法 クロマトグラフィー	15. まとめ	8. 自然科学的手法を用いた文化財研究 ①	
1. 文化と文化財	9. 自然科学的手法を用いた文化財研究 ②																				
2. 文化財と自然科学	10. 自然科学的手法を用いた文化財研究 ③																				
3. 文化財を構成する材料とその物質的なりたち	11. 文化財の劣化要因① 温湿度																				
4. 文化財の自然科学的調査法 光学的手法	12. 文化財の劣化要因② 光・空気汚染																				
5. 文化財の自然科学的調査法 分光分析	13. 文化財の劣化要因③ 生物																				
6. 文化財の自然科学的調査法 質量分析	14. 文化財の劣化要因④ 振動・災害																				
7. 文化財の自然科学的調査法 クロマトグラフィー	15. まとめ																				
8. 自然科学的手法を用いた文化財研究 ①																					
【評価方法】 期末レポートの成績に講義への参加度を加味して評価する																					
○事情により、授業内容の変更もあります。																					

教科 No.	4M16	授業科目	形態空間論特講	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	藤原隆男			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
【授業目標】 フラクタル幾何学が描く形の世界、散逸構造などの構造形成理論を学ぶことを通して、自然の多様性を理解し、各自の自然観を広げることを目標とする。																					
【授業概要】 自然界に存在するさまざまな形が、数学や科学で記述できるようになってきた。前半は、フラクタル、カオスを中心に、数学が描く形について講義する。後半は、話題を自然科学に転じ、構造形成や空間の構造そのものについて講義する。																					
【授業内容】																					
<table border="0"> <tr> <td>1. 序</td> <td>9. 平衡状態とエントロピー</td> </tr> <tr> <td>2. フラクタル幾何学の基礎</td> <td>10. 非平衡状態における構造形成</td> </tr> <tr> <td>3. いろいろなフラクタル (1)</td> <td>11. 散逸構造</td> </tr> <tr> <td>4. いろいろなフラクタル (2)</td> <td>12. 特殊相対論—空間と時間の物理</td> </tr> <tr> <td>5. 複素平面上のフラクタル</td> <td>13. 一般相対論—重力の理論</td> </tr> <tr> <td>6. カオスとは何か</td> <td>14. 宇宙の構造</td> </tr> <tr> <td>7. いろいろなカオス</td> <td>15. ブラックホール</td> </tr> <tr> <td>8. カオスとフラクタル</td> <td></td> </tr> </table>						1. 序	9. 平衡状態とエントロピー	2. フラクタル幾何学の基礎	10. 非平衡状態における構造形成	3. いろいろなフラクタル (1)	11. 散逸構造	4. いろいろなフラクタル (2)	12. 特殊相対論—空間と時間の物理	5. 複素平面上のフラクタル	13. 一般相対論—重力の理論	6. カオスとは何か	14. 宇宙の構造	7. いろいろなカオス	15. ブラックホール	8. カオスとフラクタル	
1. 序	9. 平衡状態とエントロピー																				
2. フラクタル幾何学の基礎	10. 非平衡状態における構造形成																				
3. いろいろなフラクタル (1)	11. 散逸構造																				
4. いろいろなフラクタル (2)	12. 特殊相対論—空間と時間の物理																				
5. 複素平面上のフラクタル	13. 一般相対論—重力の理論																				
6. カオスとは何か	14. 宇宙の構造																				
7. いろいろなカオス	15. ブラックホール																				
8. カオスとフラクタル																					
【評価方法】 期末レポートの成績に講義への参加度を加味して評価する。																					

教科 No.	4M17	授業科目	言語表現論特講	単位数	週1コマ 2単位
担当教員	田畑千秋			開講学期	後期
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上	
【授業目標】					
マスメディア、特に英字新聞やインターネットのニュースサイトで使われる英語の特徴を知り、慣れ親しむことを目標にする。					
【授業概要】					
情報社会に素速く対応するためには、英字新聞、インターネットのホームページなどを読みこなす能力が求められる。そのような能力を養うには、実際に英語のニュースを読んでいくしかない。本講座は、日本のメディアだけでは得られない情報を得るための道案内を務めるものである。					
【授業内容】					
1.メディアで使われる英語の特色、レトリック、構成などについて講義する。さらにインターネットにアクセスするために活用される英語の表現を紹介する。 9. 同上					
2. <i>The International Herald Tribune</i> など英字新聞の切り抜き、インターネットで得られるニュースを読み解く。 10. 同上					
3. 同上 11. 同上					
4. 同上 12. 同上					
5. 同上 13. 同上					
6. 同上 14. 同上					
7. 同上 15. 同上					
8. 同上					
【評価方法】					
授業中の発表とレポートなどで総合評価する。					
【履修上の注意】					
最初の授業に出席できる人のみ登録を認める。なお欠席日数が授業日数の3分の1を越える場合は、単位は認定できない。					

教科 No.	4M18	授業科目	比較文芸論特講	単位数	週1コマ 2単位
担当教員	柏木加代子			開講学期	前期
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上	
【授業目標】					
芸術のグローバル化の時代にあつて、本学創立の理念を考え、『白樺』などの文芸雑誌が影響を与えたフランス文化(芸術作品)の潮流についての歴史的な理解を深めることを目標とする。					
【授業概要】					
京都市立芸術大学創立130周年をむかえるにあつて、絵画専門学校別科1期生として修学し、1921年秋から1923年春にかけて留学した土田麦僊の業績について考察し、明治維新から今日に至るまでの日仏文化交渉の軌跡を、討論する。					
【授業内容】					
1. 近代日本文化の一環としての京都画壇の誕生 9. <大原女>					
2. 京都画壇の猛者、土田麦僊が生まれた風土 10. <燕子花>					
3. 麦僊の初期作品と西洋美術 11. <燕子花>					
4. 麦僊と西洋美術 12. <平牀>					
5. 麦僊とパリ 13. <妓生の家>					
6. 麦僊とヴェトイユの少女 14. まとめ					
7. <巴里の女> 15. まとめ					
8. <舞妓林泉図>					
【評価方法】					
教科書を輪読しながら、麦僊の芸術についての授業中での発表・討論などで評価する。					
【履修上の注意】					
教科書は購入(最初の授業で販売)すること。またフランス語文献も研究対象となるため、初級フランス語は修学していることが望ましい。					
【教科書】					
柏木加代子 『かきつばた 土田麦僊の愛と芸術』大阪大学出版会 2003年					

教科 No.	4M19	授業科目	身体環境解析論	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	上英俊			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 身体内部・外部で生じる様々な環境変化に対し、瞬時に反応を示す身体調節機能について理解を深める。また、身の回りで生じる様々な現象に対する身体評価方法を説明できるようになる。</p> <p>【授業概要】 身体状況を数量的に把握するために、心拍数・血圧など生理的指標の測定・解析を行う。また、様々な条件変化による身体反応と、そのメカニズムについて説明する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス：授業計画や方法、目的などについて説明する。</td> <td>9. ストレスと生体反応</td> </tr> <tr> <td>2. 体力と加齢(1)</td> <td>10. 喫煙</td> </tr> <tr> <td>3. 心拍数で何がわかるか</td> <td>11. 飲酒</td> </tr> <tr> <td>4. 血圧測定と高血圧症</td> <td>12. 実験の手順・レポートの書き方</td> </tr> <tr> <td>5. 血糖値と糖尿病</td> <td>13. 実験の企画・実施(2)</td> </tr> <tr> <td>6. 体重・体脂肪率と肥満(1)</td> <td>14. 発表(1)</td> </tr> <tr> <td>7. 体重・体脂肪率と肥満(2)</td> <td>15. 発表(2)</td> </tr> <tr> <td>8. 体重・体脂肪率と肥満(3)</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 試験・実験発表、出席率及び受講姿勢などから総合的に評価する。</p> <p>【履修上の注意】 各測定実習に応じて、ふさわしい服装で受講すること。</p> <p>【教科書】 指定しない。必要に応じて資料を配布します。</p>						1. ガイダンス：授業計画や方法、目的などについて説明する。	9. ストレスと生体反応	2. 体力と加齢(1)	10. 喫煙	3. 心拍数で何がわかるか	11. 飲酒	4. 血圧測定と高血圧症	12. 実験の手順・レポートの書き方	5. 血糖値と糖尿病	13. 実験の企画・実施(2)	6. 体重・体脂肪率と肥満(1)	14. 発表(1)	7. 体重・体脂肪率と肥満(2)	15. 発表(2)	8. 体重・体脂肪率と肥満(3)	
1. ガイダンス：授業計画や方法、目的などについて説明する。	9. ストレスと生体反応																				
2. 体力と加齢(1)	10. 喫煙																				
3. 心拍数で何がわかるか	11. 飲酒																				
4. 血圧測定と高血圧症	12. 実験の手順・レポートの書き方																				
5. 血糖値と糖尿病	13. 実験の企画・実施(2)																				
6. 体重・体脂肪率と肥満(1)	14. 発表(1)																				
7. 体重・体脂肪率と肥満(2)	15. 発表(2)																				
8. 体重・体脂肪率と肥満(3)																					

教科 No.	4M20	授業科目	創造行為論特講	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	高橋成子			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 創造行為の重要な構成要素である象徴形成過程について、心理学的観点からの知見を理解し、人間にとって芸術活動・表現活動がもつ意味について考察する手がかりを得ることを目的とする。</p> <p>【授業概要】 人間に固有の特性とされている、象徴を幅広く使用するという行為について、心理学的な視点から概説する。象徴過程のうち視覚イメージと深く関わる、心理的過程についての心理学的な考え方について論じる。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 知覚分析</td> </tr> <tr> <td>2. 象徴、意味、芸術活動</td> <td>10. 知覚分析</td> </tr> <tr> <td>3. 文化ルールとしての象徴</td> <td>11. 元型とイメージ</td> </tr> <tr> <td>4. 心の構造</td> <td>12. 元型とイメージ</td> </tr> <tr> <td>5. 意味の理解と心理学認知スタイル</td> <td>13. まとめ</td> </tr> <tr> <td>6. 心の構造と象徴形成過程</td> <td>14. 質問</td> </tr> <tr> <td>7. 心の構造と象徴形成過程</td> <td>15. レポート提出</td> </tr> <tr> <td>8. 心の構造と象徴形成過程</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 期末レポートで評価する。</p> <p>【履修上の注意】 概論的内容も含みながら講義を行うので、2度の重複履修は原則として認めない。</p>						1. ガイダンス	9. 知覚分析	2. 象徴、意味、芸術活動	10. 知覚分析	3. 文化ルールとしての象徴	11. 元型とイメージ	4. 心の構造	12. 元型とイメージ	5. 意味の理解と心理学認知スタイル	13. まとめ	6. 心の構造と象徴形成過程	14. 質問	7. 心の構造と象徴形成過程	15. レポート提出	8. 心の構造と象徴形成過程	
1. ガイダンス	9. 知覚分析																				
2. 象徴、意味、芸術活動	10. 知覚分析																				
3. 文化ルールとしての象徴	11. 元型とイメージ																				
4. 心の構造	12. 元型とイメージ																				
5. 意味の理解と心理学認知スタイル	13. まとめ																				
6. 心の構造と象徴形成過程	14. 質問																				
7. 心の構造と象徴形成過程	15. レポート提出																				
8. 心の構造と象徴形成過程																					

教科 No.	4M21	授業科目	現代社会哲学特講	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	魚住洋一			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 現代思想のテキストを読み、その内容について発言・議論させることで、その理解をより深めさせるとともに、哲学的に考える考え方を習得させることを目標とする。</p> <p>【授業概要】 今回は、「アウラの消失」と複製技術の出現という芸術の危機のなかで、芸術がそれをどう乗り越えるかという問題を考察した、ヴァルター・ベンヤミンの『複製技術時代の芸術作品』、および、写真とは「かつてあった」ものである、と語るロラン・バルトの写真論、『明るい部屋——写真についての覚書』の前半を講読する。哲学者によって書かれた写真や映画についてのテキストを、この授業では「哲学的」に読み解いていきたい。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. はじめに ヴァルター・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』I～II</td> <td>9. 同上 4. 「撮影者」、「幻像」、「観客」 5. 撮影される人</td> </tr> <tr> <td>2. 同上 III～IV</td> <td>10. 同上 6. 「観客」——その無秩序な好み 7. 冒険としての「写真」 8. 鷹揚な現象学 9. 二重性</td> </tr> <tr> <td>3. 同上 V～VI</td> <td>11. 同上 10. 「ストゥディウム」と「プンクトウム」 11. 「ストゥディウム」 12. 知らせること 13. 描くこと</td> </tr> <tr> <td>4. 同上 VII～X</td> <td>12. 同上 14. 不意にとらえること 15. 意味すること 16. 欲望をかきたてること 17. 単一の「写真」</td> </tr> <tr> <td>5. 同上 XI～XIII</td> <td>13. 同上 18. 「ストゥディウム」と「プンクトウム」の共存 19. 「プンクトウム」——部分的特長 20. 無意志的特長 21. 悟り</td> </tr> <tr> <td>6. 同上 XIV～XVI</td> <td>14. 同上 22. 事後と沈黙 23. 見えない場 24. 前言取り消し</td> </tr> <tr> <td>7. 同上 XVII～XIX</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. ロラン・バルト『明るい部屋——写真についての覚書』I.1. 「写真」の特殊性、2. 分類しがたい「写真」、3. 出発点としての感動</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 毎回の質疑や発言の内容など、平常点により評価する。哲学的議論にどれだけコミットすることができるかが評価の対象となる。出席回数も重視する。</p> <p>【履修上の注意】 毎回テキストをほぼ10ページずつ読み進むが、演習形式で、段落ごとに双方向的な質疑応答を行なうことを軸に授業を進める。毎回発言を求められるので、受講者はテキストを必ず熟読し、質問や意見などをあらかじめ準備しておくこと。</p> <p>【教科書】 多木浩二『ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品精読」、岩波現代文庫、¥900＋税 なお、ロラン・バルト『明るい部屋——写真についての覚書』（みすず書房）の入手方法については、授業中に指示する。</p>						1. はじめに ヴァルター・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』I～II	9. 同上 4. 「撮影者」、「幻像」、「観客」 5. 撮影される人	2. 同上 III～IV	10. 同上 6. 「観客」——その無秩序な好み 7. 冒険としての「写真」 8. 鷹揚な現象学 9. 二重性	3. 同上 V～VI	11. 同上 10. 「ストゥディウム」と「プンクトウム」 11. 「ストゥディウム」 12. 知らせること 13. 描くこと	4. 同上 VII～X	12. 同上 14. 不意にとらえること 15. 意味すること 16. 欲望をかきたてること 17. 単一の「写真」	5. 同上 XI～XIII	13. 同上 18. 「ストゥディウム」と「プンクトウム」の共存 19. 「プンクトウム」——部分的特長 20. 無意志的特長 21. 悟り	6. 同上 XIV～XVI	14. 同上 22. 事後と沈黙 23. 見えない場 24. 前言取り消し	7. 同上 XVII～XIX		8. ロラン・バルト『明るい部屋——写真についての覚書』I.1. 「写真」の特殊性、2. 分類しがたい「写真」、3. 出発点としての感動	
1. はじめに ヴァルター・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』I～II	9. 同上 4. 「撮影者」、「幻像」、「観客」 5. 撮影される人																				
2. 同上 III～IV	10. 同上 6. 「観客」——その無秩序な好み 7. 冒険としての「写真」 8. 鷹揚な現象学 9. 二重性																				
3. 同上 V～VI	11. 同上 10. 「ストゥディウム」と「プンクトウム」 11. 「ストゥディウム」 12. 知らせること 13. 描くこと																				
4. 同上 VII～X	12. 同上 14. 不意にとらえること 15. 意味すること 16. 欲望をかきたてること 17. 単一の「写真」																				
5. 同上 XI～XIII	13. 同上 18. 「ストゥディウム」と「プンクトウム」の共存 19. 「プンクトウム」——部分的特長 20. 無意志的特長 21. 悟り																				
6. 同上 XIV～XVI	14. 同上 22. 事後と沈黙 23. 見えない場 24. 前言取り消し																				
7. 同上 XVII～XIX																					
8. ロラン・バルト『明るい部屋——写真についての覚書』I.1. 「写真」の特殊性、2. 分類しがたい「写真」、3. 出発点としての感動																					

教科 No.	4M22	授業科目	造形計画特講	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	井上明彦			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 造形計画は、美術・デザイン・工芸といった既存領域の区別の手前で、日常のモノ・行為・場所の中に創造的な知覚と表現の契機を探り、芸術と日常の新たな接続を実践／思考することを目標とする。</p> <p>【授業概要】 異なる分野で創作活動を行う者が集う場という特質を活かし、異質な視点や感性が実践を通じて相互に交流する場を創出する。具体的には受講者各自が自己の制作やそれに関わる関心事からテーマや課題を提出し、それをめぐって全員がワークショップ形式で実験／共同研究を行うことで、視野と思考の相互的な深化拡張をはかる。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス：なぜワークショップか？</td> <td>9. ワークショップの課題の検討とディスカッション、実行計画の策定(2)</td> </tr> <tr> <td>2. ワークショップ・デモンストレーションその1</td> <td>10. 実験と研究(5)</td> </tr> <tr> <td>3. ワークショップ・デモンストレーションその2</td> <td>11. 実験と研究(6)</td> </tr> <tr> <td>4. ワークショップの課題の検討とディスカッション、実行計画の策定(1)</td> <td>12. 実験と研究(7)</td> </tr> <tr> <td>5. 実験と研究(1)</td> <td>13. 実験と研究(8)</td> </tr> <tr> <td>6. 実験と研究(2)</td> <td>14. 実験と研究(9)</td> </tr> <tr> <td>7. 実験と研究(3)</td> <td>15. 全体総括</td> </tr> <tr> <td>8. 実験と研究(4)</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 授業への参加度、課題への取り組み状況によって総合的に評価する。</p> <p>【履修上の注意】 講義ではなく演習形式の授業であり、屋外や授業時間外での作業も生じる。専門領域に閉じこもらない開かれた好奇心と創作意欲が必要である。</p> <p>【参考書等】 ※備考 2010年度は、さまざまな実験と研究の最終成果として「御守り工房展」を小ギャラリーにおいて開催した。</p>						1. ガイダンス：なぜワークショップか？	9. ワークショップの課題の検討とディスカッション、実行計画の策定(2)	2. ワークショップ・デモンストレーションその1	10. 実験と研究(5)	3. ワークショップ・デモンストレーションその2	11. 実験と研究(6)	4. ワークショップの課題の検討とディスカッション、実行計画の策定(1)	12. 実験と研究(7)	5. 実験と研究(1)	13. 実験と研究(8)	6. 実験と研究(2)	14. 実験と研究(9)	7. 実験と研究(3)	15. 全体総括	8. 実験と研究(4)	
1. ガイダンス：なぜワークショップか？	9. ワークショップの課題の検討とディスカッション、実行計画の策定(2)																				
2. ワークショップ・デモンストレーションその1	10. 実験と研究(5)																				
3. ワークショップ・デモンストレーションその2	11. 実験と研究(6)																				
4. ワークショップの課題の検討とディスカッション、実行計画の策定(1)	12. 実験と研究(7)																				
5. 実験と研究(1)	13. 実験と研究(8)																				
6. 実験と研究(2)	14. 実験と研究(9)																				
7. 実験と研究(3)	15. 全体総括																				
8. 実験と研究(4)																					

教科 No.	2309	授業科目	芸術学 1		単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	加須屋明子				開講学期	前期																
履修条件	※学部設定科目（合計4単位まで認定）		履修学年・専攻等	1年次以上																		
<p>【授業目標】 芸術に関する理論的省察を深めることを目的とする。とくに芸術学1は、前衛やモダニズムの実践を踏まえつつ、それらが今日においてどのように継承されているのかを考える。</p> <p>【授業概要】 技術の飛躍的發展に伴って、近年多様化の一途をたどる現代美術の様々なあり方について考察を行う。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 前衛映像2 リプチンスキ</td> </tr> <tr> <td>2. カトヴィツェの前衛</td> <td>10. 前衛映像3 ロバコフスキ</td> </tr> <tr> <td>3. ヤルタの影で パウカ1</td> <td>11. ポピュラーカルチャーと前衛</td> </tr> <tr> <td>4. 冷戦前後 パウカ2</td> <td>12. アニメーションの実践</td> </tr> <tr> <td>5. 映像と絵画1 ヴィオラ</td> <td>13. まとめ1</td> </tr> <tr> <td>6. 映像と絵画2 レイマン</td> <td>14. まとめ2</td> </tr> <tr> <td>7. 映像と絵画3 サスナル</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 前衛映像1 ティメルソン</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 レポートまたは筆記試験</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>【教科書】</p> <p>【参考書等】 授業中に指示する</p>							1. イントロダクション	9. 前衛映像2 リプチンスキ	2. カトヴィツェの前衛	10. 前衛映像3 ロバコフスキ	3. ヤルタの影で パウカ1	11. ポピュラーカルチャーと前衛	4. 冷戦前後 パウカ2	12. アニメーションの実践	5. 映像と絵画1 ヴィオラ	13. まとめ1	6. 映像と絵画2 レイマン	14. まとめ2	7. 映像と絵画3 サスナル		8. 前衛映像1 ティメルソン	
1. イントロダクション	9. 前衛映像2 リプチンスキ																					
2. カトヴィツェの前衛	10. 前衛映像3 ロバコフスキ																					
3. ヤルタの影で パウカ1	11. ポピュラーカルチャーと前衛																					
4. 冷戦前後 パウカ2	12. アニメーションの実践																					
5. 映像と絵画1 ヴィオラ	13. まとめ1																					
6. 映像と絵画2 レイマン	14. まとめ2																					
7. 映像と絵画3 サスナル																						
8. 前衛映像1 ティメルソン																						

教科 No.	2310	授業科目	芸術学 2		単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	加須屋明子				開講学期	後期																
履修条件	※学部設定科目（合計4単位まで認定）		履修学年・専攻等	1年次以上																		
<p>【授業目標】 芸術に関する理論的省察を深めることを目的とする。とくに芸術学2は、個別的・具体的研究に重点をおく。</p> <p>【授業概要】 ヨーロッパの中央に位置するポーランドの、20世紀から21世紀にかけての芸術について取り上げる。それが歴史においてどのような役割をにない、またヨーロッパ文化圏のなかでどのような共通性と特殊性を持つのかを考えつつ、芸術の持つ可能性について探りたい。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. ヴィトカツィと演劇</td> </tr> <tr> <td>2. ヤン・マテイコ</td> <td>10. 冷戦と前衛1</td> </tr> <tr> <td>3. 若きポーランド1</td> <td>11. 冷戦と前衛2</td> </tr> <tr> <td>4. 若きポーランド2</td> <td>12. ポーランド映画1</td> </tr> <tr> <td>5. ジャポニズムとナショナリズム</td> <td>13. ポーランド映画2</td> </tr> <tr> <td>6. ポーランドデザイン</td> <td>14. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. ポーランドの前衛・構成主義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. ポーランドの前衛・グルバ・クラコフスカ</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 レポートまたは筆記試験</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>【教科書】</p> <p>【参考書等】 『アヴァンギャルド宣言—中東欧のモダニズム』三元社 3,465円、『ポーランドの建築・デザイン史—工芸復興からモダニズムへ』彩流社 3,150円</p>							1. ガイダンス	9. ヴィトカツィと演劇	2. ヤン・マテイコ	10. 冷戦と前衛1	3. 若きポーランド1	11. 冷戦と前衛2	4. 若きポーランド2	12. ポーランド映画1	5. ジャポニズムとナショナリズム	13. ポーランド映画2	6. ポーランドデザイン	14. まとめ	7. ポーランドの前衛・構成主義		8. ポーランドの前衛・グルバ・クラコフスカ	
1. ガイダンス	9. ヴィトカツィと演劇																					
2. ヤン・マテイコ	10. 冷戦と前衛1																					
3. 若きポーランド1	11. 冷戦と前衛2																					
4. 若きポーランド2	12. ポーランド映画1																					
5. ジャポニズムとナショナリズム	13. ポーランド映画2																					
6. ポーランドデザイン	14. まとめ																					
7. ポーランドの前衛・構成主義																						
8. ポーランドの前衛・グルバ・クラコフスカ																						

教科 No.	2326	授業科目	美術史特講 1	単位数	集中30時間 2単位
担当教員	(未定)			開講学期	後期
履修条件	※学部設定科目 (合計4単位まで認定)		履修学年・専攻等	1年次以上	
<p>※詳細については、掲示にて周知します。</p>					

教科 No.	2327	授業科目	美術史特講 2	単位数	集中30時間 2単位																								
担当教員	○岡田温司			開講学期	後期																								
履修条件	※学部設定科目 (合計4単位まで認定)		履修学年・専攻等	1年次以上																									
<p>【授業目標】 西洋美術史における多様な事例についての知識を得るとともに、美術史・芸術学の新しい理論を学び、新たな着想へと繋げる。</p> <p>【授業概要】 芸術と精神分析。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. I. フロイト以前/I-1. 「狂気の表象」ギリシアからシャルコまで</td> <td>9.</td> <td>フロイトのレオナルド論 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. I-2. 「芸術と狂気」というトポスをめぐって</td> <td>10.</td> <td>II-4. フロイトのミケランジェロ論 (1)</td> </tr> <tr> <td>3. I-3. 夢を描くーグランヴィル</td> <td>11.</td> <td>フロイトのミケランジェロ論 (2)</td> </tr> <tr> <td>4. I-4. 「狂人」の肖像</td> <td>12. III. フロイト以後/III-1. 応用精神分析について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. I-5. 医者と患者の芸術</td> <td>13.</td> <td>III-2. セルフを表象するー自画像をめぐって (1), (2)</td> </tr> <tr> <td>6. II. フロイトのテキスト/II-1. フロイトにおける美, 芸術</td> <td>14.</td> <td>III-3. 対象関係理論</td> </tr> <tr> <td>7. II-2. フロイトとイタリア</td> <td>15.</td> <td>III-4. 観る主体と無意識</td> </tr> <tr> <td>8. II-3. フロイトのレオナルド論 (1)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 出席とレポート。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>【教科書】 岡田温司 『フロイトのイタリアー旅・芸術・精神分析』平凡社</p> <p>【参考書等】 岡田温司 『ミメーシスを越えて』勁草書房, ミシェル・テヴォ 『不実なる鏡』人文書院</p>						1. I. フロイト以前/I-1. 「狂気の表象」ギリシアからシャルコまで	9.	フロイトのレオナルド論 (2)	2. I-2. 「芸術と狂気」というトポスをめぐって	10.	II-4. フロイトのミケランジェロ論 (1)	3. I-3. 夢を描くーグランヴィル	11.	フロイトのミケランジェロ論 (2)	4. I-4. 「狂人」の肖像	12. III. フロイト以後/III-1. 応用精神分析について		5. I-5. 医者と患者の芸術	13.	III-2. セルフを表象するー自画像をめぐって (1), (2)	6. II. フロイトのテキスト/II-1. フロイトにおける美, 芸術	14.	III-3. 対象関係理論	7. II-2. フロイトとイタリア	15.	III-4. 観る主体と無意識	8. II-3. フロイトのレオナルド論 (1)		
1. I. フロイト以前/I-1. 「狂気の表象」ギリシアからシャルコまで	9.	フロイトのレオナルド論 (2)																											
2. I-2. 「芸術と狂気」というトポスをめぐって	10.	II-4. フロイトのミケランジェロ論 (1)																											
3. I-3. 夢を描くーグランヴィル	11.	フロイトのミケランジェロ論 (2)																											
4. I-4. 「狂人」の肖像	12. III. フロイト以後/III-1. 応用精神分析について																												
5. I-5. 医者と患者の芸術	13.	III-2. セルフを表象するー自画像をめぐって (1), (2)																											
6. II. フロイトのテキスト/II-1. フロイトにおける美, 芸術	14.	III-3. 対象関係理論																											
7. II-2. フロイトとイタリア	15.	III-4. 観る主体と無意識																											
8. II-3. フロイトのレオナルド論 (1)																													

教科 No.	2339	授業科目	日本美術史演習 1	単位数	週2コマ 2単位																
担当教員	礪波恵昭 ○毛呂祐子			開講学期	前期																
履修条件	※学部設定科目 (合計 4 単位まで認定)		履修学年・専攻等	1 年次以上																	
<p>【授業目標】 日本美術史上重要な作品を実際に見学し、作品の基礎知識を身につけるとともに、日本美術史の流れを学習することによって、創作活動に生かし、実作品に即する美術史研究の基本を学ぶことを目標とする。</p> <p>【授業概要】 毎週、原則として近畿地方の寺社や博物館・美術館を訪ね、仏教美術を中心として、実際の作品に即して、基礎知識と日本美術史上の位置づけを授業する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス (希望者が多い場合は選抜を行う。見学先予定表を配布する。)</td> <td>9. 見学授業</td> </tr> <tr> <td>2. 見学授業</td> <td>10. 見学授業</td> </tr> <tr> <td>3. 見学授業</td> <td>11. 見学授業</td> </tr> <tr> <td>4. 見学授業</td> <td>12. 見学授業</td> </tr> <tr> <td>5. 見学授業</td> <td>13. 見学授業</td> </tr> <tr> <td>6. 見学授業</td> <td>14. 見学授業</td> </tr> <tr> <td>7. 見学授業</td> <td>15. 試験</td> </tr> <tr> <td>8. 見学授業</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 学期末の試験の成績と、出席状況とを同等に評価する。 なお、全日程の半分以上の出席が必須。</p> <p>【履修上の注意】 見学は午後の授業時間にも行うことがあるので、午後のほかの授業の履修は難しいことを予め了承のこと。 なお、後期開講のNo.2340 日本美術史演習 2 も履修することが望ましい。</p> <p>【教科書】 なし。授業に必要な資料は配布する</p> <p>【参考書等】 なし。 ※備考 定員 40 名。履修希望者が定員を上回った場合は選抜を行う。 選抜方法などは学期はじめに別途掲示するので、教務学生課前の掲示に注意すること。 毎回、入館料・拝観料・現地までの交通費などの実費が必要。 原則として見学先にて現地集合・解散とする。見学先までの移動には公共交通機関を利用すること。</p>						1. ガイダンス (希望者が多い場合は選抜を行う。見学先予定表を配布する。)	9. 見学授業	2. 見学授業	10. 見学授業	3. 見学授業	11. 見学授業	4. 見学授業	12. 見学授業	5. 見学授業	13. 見学授業	6. 見学授業	14. 見学授業	7. 見学授業	15. 試験	8. 見学授業	
1. ガイダンス (希望者が多い場合は選抜を行う。見学先予定表を配布する。)	9. 見学授業																				
2. 見学授業	10. 見学授業																				
3. 見学授業	11. 見学授業																				
4. 見学授業	12. 見学授業																				
5. 見学授業	13. 見学授業																				
6. 見学授業	14. 見学授業																				
7. 見学授業	15. 試験																				
8. 見学授業																					

教科 No.	2340	授業科目	日本美術史演習 2	単位数	週2コマ 2単位																
担当教員	礪波恵昭 ○毛呂祐子			開講学期	後期																
履修条件	※学部設定科目 (合計 4 単位まで認定)		履修学年・専攻等	1 年次以上																	
<p>【授業目標】 日本美術史上特徴ある作品を実際に見学し、作品の独自性に関する基礎知識を身につけるとともに、日本美術史の豊かさを学習することによって、創作活動に生かし、美術史研究の展開を学ぶことを目標とする。</p> <p>【授業概要】 毎週、原則として近畿地方の寺社や博物館・美術館を訪ね、日本美術史上特徴ある作品に即して、その独自性と日本美術史の多様性を授業する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス (希望者が多い場合は選抜を行う。見学先予定表を配布する。)</td> <td>9. 見学授業</td> </tr> <tr> <td>2. 見学授業</td> <td>10. 見学授業</td> </tr> <tr> <td>3. 見学授業</td> <td>11. 見学授業</td> </tr> <tr> <td>4. 見学授業</td> <td>12. 見学授業</td> </tr> <tr> <td>5. 見学授業</td> <td>13. 見学授業</td> </tr> <tr> <td>6. 見学授業</td> <td>14. 見学授業</td> </tr> <tr> <td>7. 見学授業</td> <td>15. 試験</td> </tr> <tr> <td>8. 見学授業</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 学期末の試験の成績と、出席状況とを同等に評価する。 なお、全日程の半分以上の出席が必須。</p> <p>【履修上の注意】 見学は午後の授業時間にも行うことがあるので、午後のほかの授業の履修は難しいことを予め了承のこと。 なお、前期開講のNo.2339 日本美術史演習 1 を履修しておくことが望ましい。</p> <p>【教科書】 なし。授業に必要な資料は配布する</p> <p>【参考書等】 なし。 ※備考 定員 40 名。履修希望者が定員を上回った場合は選抜を行う。 選抜方法などは学期はじめに別途掲示するので、教務学生課前の掲示に注意すること。 毎回、入館料・拝観料・現地までの交通費などの実費が必要。 原則として見学先にて現地集合・解散とする。見学先までの移動には公共交通機関を利用すること。</p>						1. ガイダンス (希望者が多い場合は選抜を行う。見学先予定表を配布する。)	9. 見学授業	2. 見学授業	10. 見学授業	3. 見学授業	11. 見学授業	4. 見学授業	12. 見学授業	5. 見学授業	13. 見学授業	6. 見学授業	14. 見学授業	7. 見学授業	15. 試験	8. 見学授業	
1. ガイダンス (希望者が多い場合は選抜を行う。見学先予定表を配布する。)	9. 見学授業																				
2. 見学授業	10. 見学授業																				
3. 見学授業	11. 見学授業																				
4. 見学授業	12. 見学授業																				
5. 見学授業	13. 見学授業																				
6. 見学授業	14. 見学授業																				
7. 見学授業	15. 試験																				
8. 見学授業																					

■テーマ演習■

【授業目標】

テーマ演習は、総合基礎実技と並ぶ本学美術学部独自の横断教育カリキュラムで、一定のテーマに沿って、学生と教員が専攻を越えて実践的な研究活動を行い、芸術に関わる幅広い視野と探究心、コミュニケーション能力を養うことを目的とする。

【授業概要】

2011年度より、自由テーマ研究を融合し、学生からの研究テーマの提案を含む、さらに幅広く柔軟な演習科目として改訂された。

大学院修士課程学生の履修を可とし、履修単位の上限は学部生8単位、修士生4単位までとする。

「テーマ」の提案は、学生からでも可能で、その場合は、教員1名以上および学生（3回生以上、修士課程を含む）5名以上の参加を成立要件とし、教務委員会で承認する。

テーマの提出時期・方法は本欄下記に記すほか、掲示するので注意すること。

今年度、現時点で開設されるのは以下のとおりである。

【前期】

- | | | |
|----------|------------------------|--|
| テーマ演習 1 | (森村泰昌資料研究) : | 加須屋明子 (美学芸術学) |
| テーマ演習 2 | (プロットと演劇空間) : | 柏木加代子 (仏語仏文学) |
| テーマ演習 3 | (ジェンダー/セクシュアリティ/アーツ) : | 魚住洋一 (哲学) |
| テーマ演習 4 | (科学と芸術) : | 高橋成子 (心理学) |
| テーマ演習 5 | (色いろいろ) : | 藤原隆男 (宇宙物理学) |
| テーマ演習 6 | (西洋美術三昧) : | 潮江宏三 (西洋美術史) |
| テーマ演習 7 | (祇園祭の楽しみ方—美大生編) : | 吉田雅子 (染織史) |
| テーマ演習 8 | (歌舞伎に親しむ) : | 定金計次 (東洋美術史) |
| テーマ演習 9 | (京都の陶磁と漆) : | 伊東徹夫 (陶磁器工芸史) |
| テーマ演習 10 | (つちのいえ) : | 井上明彦 (造形計画), 秋山陽 (陶磁器), 長谷川直人 (陶磁器), 栗本夏樹 (漆工) |
| テーマ演習 11 | (芸術と伝承) : | 藤野康子 (染織), 森野彰人 (陶磁器), 安井友幸 (漆工), 横田学 (美術教育学) |

【前期】

- | | | |
|----------|--------------|--|
| テーマ演習 12 | (森村泰昌資料研究) : | 加須屋明子 (美学芸術学) |
| テーマ演習 13 | (つちのいえ) : | 井上明彦 (造形計画), 秋山陽 (陶磁器), 長谷川直人 (陶磁器), 栗本夏樹 (漆工) |

【2011年度テーマ演習（学生提案・前期分）の募集について】

- ・受付期間 : 4月1日(金)・4日(月)・5日(火)
- ・受付時間 : 8:30~17:00 (ただし12:00~13:00を除く)
- ・受付場所 : 教務学生課美術教務係 (申請用紙も受付場所にあります。)
- ・提案条件 : 提案できる学生は、学部生3回生以上および修士生とする。

教科 No.	2411	授業科目	テーマ演習 1 (森村泰昌資料研究)	単位数	週2コマ 2単位																
担当教員	加須屋明子			開講学期	前期																
履修条件	※学部設定科目 (合計 4 単位まで認定)		履修学年・専攻等	1 年次以上																	
<p>【授業目標】 日本の現代美術を代表する一人として、国際的に活躍を続ける美術作家、森村泰昌についての関連文献資料について、現物にあたることによって、周囲の記事や当時の文化的背景などについても合わせて検討を進め、考察する。</p> <p>【授業概要】 未整理の関連文献資料 (自筆、対談、インタビュー、新聞雑誌掲載記事、図録収録記事、単行本その他、1980 年代初頭から現在まで) のデータをまとめ、デジタル化を進める。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 文献資料データ確認とデータベースの構築</td> </tr> <tr> <td>2. 文献資料データの確認とデータ記録</td> <td>10. "</td> </tr> <tr> <td>3. "</td> <td>11. "</td> </tr> <tr> <td>4. "</td> <td>12. "</td> </tr> <tr> <td>5. "</td> <td>13. "</td> </tr> <tr> <td>6. "</td> <td>14. まとめ 1 資料の公開について 1</td> </tr> <tr> <td>7. 美術館資料データベースの実際 見学 1</td> <td>15. まとめ 2 資料の公開について 2</td> </tr> <tr> <td>8. 美術館資料データベースの実際 見学 2</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 平常点を重視する。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>【教科書】 授業中に指示する。</p>						1. ガイダンス	9. 文献資料データ確認とデータベースの構築	2. 文献資料データの確認とデータ記録	10. "	3. "	11. "	4. "	12. "	5. "	13. "	6. "	14. まとめ 1 資料の公開について 1	7. 美術館資料データベースの実際 見学 1	15. まとめ 2 資料の公開について 2	8. 美術館資料データベースの実際 見学 2	
1. ガイダンス	9. 文献資料データ確認とデータベースの構築																				
2. 文献資料データの確認とデータ記録	10. "																				
3. "	11. "																				
4. "	12. "																				
5. "	13. "																				
6. "	14. まとめ 1 資料の公開について 1																				
7. 美術館資料データベースの実際 見学 1	15. まとめ 2 資料の公開について 2																				
8. 美術館資料データベースの実際 見学 2																					

教科 No.	2412	授業科目	テーマ演習 2 (プロットと演劇空間)	単位数	週2コマ 2単位																
担当教員	柏木加代子			開講学期	前期																
履修条件	※学部設定科目 (合計 4 単位まで認定)		履修学年・専攻等	1 年次以上																	
<p>【授業目標】 西洋の「演劇」に関し、歴史的・伝統的な観点から、戯曲 (台本) の推移を見極め、芸術に関わるものとしての「演劇空間創造」の可能性を考える。</p> <p>【授業概要】 価値観の多様化した 20 世紀の戯曲は、プロットの役割が副次的なものとなった。さらにプロットが欠如した戯曲さえ生み出された。その兆しは、たとえば、すでに 19 世紀末スキャンダルを巻き起こしジャリの『ユビュ王』は、いわばプロットがイメージに埋没した形の演劇作品である。演劇の歴史を辿ることによって、その物理的・精神的なあり方を考察する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 基本テーマについて討論し、各自の発表の日程を設定する。</td> <td>9. "</td> </tr> <tr> <td>2. 各自のテーマの設定し、発表の準備を共同で行う。</td> <td>10. "</td> </tr> <tr> <td>3. 各自のテーマに従って発表・討論する。</td> <td>11. "</td> </tr> <tr> <td>4. "</td> <td>12. "</td> </tr> <tr> <td>5. "</td> <td>13. "</td> </tr> <tr> <td>6. "</td> <td>14. "</td> </tr> <tr> <td>7. "</td> <td>15. "</td> </tr> <tr> <td>8. "</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 授業中の発表内容の完成度と、討論への参加度によって評価する。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>【教科書】 『エクリチュールの冒険』、大阪大学出版会、定価 (本体) 2000 円</p> <p>【参考書等】 各授業内容にあわせた参考資料をその都度指示する。</p> <p>※備考 授業計画 1～15 とは別に、並行して行う課題や実習、その他必要に応じて授業計画の説明を記入ください。</p>						1. 基本テーマについて討論し、各自の発表の日程を設定する。	9. "	2. 各自のテーマの設定し、発表の準備を共同で行う。	10. "	3. 各自のテーマに従って発表・討論する。	11. "	4. "	12. "	5. "	13. "	6. "	14. "	7. "	15. "	8. "	
1. 基本テーマについて討論し、各自の発表の日程を設定する。	9. "																				
2. 各自のテーマの設定し、発表の準備を共同で行う。	10. "																				
3. 各自のテーマに従って発表・討論する。	11. "																				
4. "	12. "																				
5. "	13. "																				
6. "	14. "																				
7. "	15. "																				
8. "																					

教科 No.	2413	授業科目	テーマ演習3 (ジェンダー/セクシュアリティ/アーツ)	単位数	週2コマ 2単位																
担当教員	魚住洋一			開講学期	前期																
履修条件	※学部設定科目 (合計4単位まで認定)		履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 現代思想のテキストを読み、その内容について発表・議論させることで、その理解をより深めさせるとともに、哲学的に考える考え方を習得させることを目標とする。</p> <p>【授業概要】 今年度は、「ジェンダー/セクシュアリティ/アーツ」と題して、現代における「性」をめぐる諸問題を、フェミニズムなどのテキストを読み解いていくとともに、「性」に関わる映像作品などを実際に見ながら、ともに考えていきたい。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 第1回 Me Being me — 山上千恵子 "Dear Tari" を見る (ビデオ鑑賞)</td> <td>9. 第9回 ボルノグラフィと性暴力—C・A・マッキノン『ボルノグラフィ—「平等権」と「表現の自由」の間で』</td> </tr> <tr> <td>2. 第2回 オトコはクダモノ、オンナはクダモノ?—藤野寛「なぜ小倉千加子はフェミニズムは失敗した、と言うのか」</td> <td>10. 第10回 境界のポリティックス—dumb type "S/N" を見る (ビデオ鑑賞)</td> </tr> <tr> <td>3. 第3回 セックス/ジェンダー/セクシュアリティ—加藤秀一「性現象論に何が出来るか」</td> <td>11. 第11回 消費されるあなたの身体—ジャン・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』</td> </tr> <tr> <td>4. 第4回 セクシュアリティの「歴史」—山崎カヲル「身体的快楽の系譜学」</td> <td>12. 第12回 ヌードの反美学—リンダ・ニード『ヌードの反美学』(1)</td> </tr> <tr> <td>5. 第5回 古代ギリシアの「同性愛」—デイヴィッド・ハルプリン『同性愛の百年間』</td> <td>13. 第13回 フェミニスト・アートの過去と未来—リンダ・ニード『ヌードの反美学』(2)</td> </tr> <tr> <td>6. 第6回 幼児性欲とエディップス・コンプレックス—ジークムント・フロイト『精神分析入門』</td> <td>14. 第14回 演技としてのジェンダー—ジュディス・パトラ「パフォーマンス・ティグ・アクトとジェンダーの構成」</td> </tr> <tr> <td>7. 第7回 何のためにセックスするのか?—魚住洋一「性的欲望とは何か?」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 第8回 揺れる「家族」—金井淑子「現代家族の深層へ」</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 毎回の発表や質疑など、平常点により評価する。</p> <p>【履修上の注意】 毎回、報告者を指名し、指定されたテキストの内容を要約させる。授業に際しては、受講者全員に質問、意見など発言を求めるので、テキストを必ず熟読してくること。</p> <p>【教科書】 テキストの入手方法については、授業中に指示する。</p>						1. 第1回 Me Being me — 山上千恵子 "Dear Tari" を見る (ビデオ鑑賞)	9. 第9回 ボルノグラフィと性暴力—C・A・マッキノン『ボルノグラフィ—「平等権」と「表現の自由」の間で』	2. 第2回 オトコはクダモノ、オンナはクダモノ?—藤野寛「なぜ小倉千加子はフェミニズムは失敗した、と言うのか」	10. 第10回 境界のポリティックス—dumb type "S/N" を見る (ビデオ鑑賞)	3. 第3回 セックス/ジェンダー/セクシュアリティ—加藤秀一「性現象論に何が出来るか」	11. 第11回 消費されるあなたの身体—ジャン・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』	4. 第4回 セクシュアリティの「歴史」—山崎カヲル「身体的快楽の系譜学」	12. 第12回 ヌードの反美学—リンダ・ニード『ヌードの反美学』(1)	5. 第5回 古代ギリシアの「同性愛」—デイヴィッド・ハルプリン『同性愛の百年間』	13. 第13回 フェミニスト・アートの過去と未来—リンダ・ニード『ヌードの反美学』(2)	6. 第6回 幼児性欲とエディップス・コンプレックス—ジークムント・フロイト『精神分析入門』	14. 第14回 演技としてのジェンダー—ジュディス・パトラ「パフォーマンス・ティグ・アクトとジェンダーの構成」	7. 第7回 何のためにセックスするのか?—魚住洋一「性的欲望とは何か?」		8. 第8回 揺れる「家族」—金井淑子「現代家族の深層へ」	
1. 第1回 Me Being me — 山上千恵子 "Dear Tari" を見る (ビデオ鑑賞)	9. 第9回 ボルノグラフィと性暴力—C・A・マッキノン『ボルノグラフィ—「平等権」と「表現の自由」の間で』																				
2. 第2回 オトコはクダモノ、オンナはクダモノ?—藤野寛「なぜ小倉千加子はフェミニズムは失敗した、と言うのか」	10. 第10回 境界のポリティックス—dumb type "S/N" を見る (ビデオ鑑賞)																				
3. 第3回 セックス/ジェンダー/セクシュアリティ—加藤秀一「性現象論に何が出来るか」	11. 第11回 消費されるあなたの身体—ジャン・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』																				
4. 第4回 セクシュアリティの「歴史」—山崎カヲル「身体的快楽の系譜学」	12. 第12回 ヌードの反美学—リンダ・ニード『ヌードの反美学』(1)																				
5. 第5回 古代ギリシアの「同性愛」—デイヴィッド・ハルプリン『同性愛の百年間』	13. 第13回 フェミニスト・アートの過去と未来—リンダ・ニード『ヌードの反美学』(2)																				
6. 第6回 幼児性欲とエディップス・コンプレックス—ジークムント・フロイト『精神分析入門』	14. 第14回 演技としてのジェンダー—ジュディス・パトラ「パフォーマンス・ティグ・アクトとジェンダーの構成」																				
7. 第7回 何のためにセックスするのか?—魚住洋一「性的欲望とは何か?」																					
8. 第8回 揺れる「家族」—金井淑子「現代家族の深層へ」																					

教科 No.	2414	授業科目	テーマ演習4 (科学と芸術)	単位数	週2コマ 2単位																								
担当教員	高橋成子			開講学期	前期																								
履修条件	※学部設定科目 (合計4単位まで認定)		履修学年・専攻等	1年次以上																									
<p>【授業目標】 現代の科学の成果やそれが描く世界にふれることによって、各自の自然観や生命観を検証しながら、科学と美との関係を考える。</p> <p>【授業概要】 自然科学は、自然の秩序や理論の厳密さ単純さを美しいとする美意識をもち、理論の正しさを、客観的に検証するための方法論をもつ。本演習では、科学における美について各自の研究発表と討論を通じて、科学と芸術の関係を考察する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス 及び 基本テーマの設定</td> <td>9.</td> <td>''</td> </tr> <tr> <td>2. 各自の研究テーマの設定, 発表の準備</td> <td>10.</td> <td>''</td> </tr> <tr> <td>3. ''</td> <td>11.</td> <td>''</td> </tr> <tr> <td>4. 各自のテーマに従って順に発表, 討論</td> <td>12.</td> <td>''</td> </tr> <tr> <td>5. ''</td> <td>13.</td> <td>''</td> </tr> <tr> <td>6. ''</td> <td>14.</td> <td>''</td> </tr> <tr> <td>7. ''</td> <td>15.</td> <td>まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. ''</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 発表内容, レジュメの完成度, 討論への参加度で評価する。</p>						1. ガイダンス 及び 基本テーマの設定	9.	''	2. 各自の研究テーマの設定, 発表の準備	10.	''	3. ''	11.	''	4. 各自のテーマに従って順に発表, 討論	12.	''	5. ''	13.	''	6. ''	14.	''	7. ''	15.	まとめ	8. ''		
1. ガイダンス 及び 基本テーマの設定	9.	''																											
2. 各自の研究テーマの設定, 発表の準備	10.	''																											
3. ''	11.	''																											
4. 各自のテーマに従って順に発表, 討論	12.	''																											
5. ''	13.	''																											
6. ''	14.	''																											
7. ''	15.	まとめ																											
8. ''																													

教科 No.	2415	授業科目	テーマ演習5 (色いろいろ)	単位数	週2コマ 2単位
担当教員	藤原隆男			開講学期	前期
履修条件	※学部設定科目 (合計4単位まで認定)		履修学年・専攻等	1年次以上	
【授業目標】 色をテーマにして自由に研究し、発表・討論する。色の科学、色のメカニズム、色の文化など、色にかかわる話題を取りあげて研究し、色についての理解を深めることを目標とする。					
【授業概要】 モノも光も、すべてのものは色を持つ。色とは何か、どうして色が生まれるのか、色はどのように使われるのか、色をいろいろな側面から考察したい。他の教員にも参加してもらう予定。					
【授業内容】					
1. 「色」というテーマに沿って、各自の研究テーマを設定	9.	"			
2. 提案者 (藤原) による発表と討論	10.	"			
3. 各自のテーマに従って順に発表・討論	11.	"			
4. "	12.	"			
5. "	13.	"			
6. "	14.	"			
7. "	15.	"			
8. "					
【評価方法】 発表の内容、レジュメの完成度、討論への参加度で評価する。					
【履修上の注意】 各自の問題意識によって個々のテーマを決め、調査・分析した結果をレジュメにまとめて発表し、討論する。人数が多いときは、グループに分けることがある。					

教科 No.	2416	授業科目	テーマ演習6 (西洋美術三昧)	単位数	週2コマ 2単位
担当教員	潮江宏三			開講学期	前期
履修条件	※学部設定科目 (合計4単位まで認定)		履修学年・専攻等	1年次以上	
【授業目標】 西洋美術からテーマを選んで、ゼミでの発表と質疑応答を行ない、プレゼンテーションのために内容をまとめる力、論理的な説明能力、特に美術現象という視覚的事象を言語的に説明する能力を養い、かつ個別的なテーマについての独自の理解を深めることを目標とします。					
【授業概要】 テーマは「西洋美術三昧」とし、担当教員を含め、西洋美術を全体のくくりとして、そこから受講生がそれぞれ強い関心を抱くテーマを選び、それに関する研究をゼミの中で発表し、それをもとに質疑応答を行うという形で授業を進めます。発表予定者は、参加者が学習した上で参加できるように、1週間前に発表テーマ内容を告知することを義務とします。					
【授業内容】					
1. テーマの題名を説明し、それに基づいて各参加者の発表内容について話し合います。手始めに教員が「イギリス古寺巡礼」をテーマに発表をし、質疑応答を行います。	9. 参加者の発表	7			
2. 続「イギリス古寺巡礼」	10. 参加者の発表	8			
3. 参加者の発表 1	11. 参加者の発表	9			
4. 参加者の発表 2	12. 参加者の発表	10			
5. 参加者の発表 3	13. 参加者の発表	11			
6. 参加者の発表 4	14. 参加者の発表	12			
7. 参加者の発表 5	15. 参加者の発表	13			
8. 参加者の発表 6					
【評価方法】 各自の発表の内容とプレゼンテーション、理解の独創性等を評価の指標として、それに出席点を加味して評価します。その後の勉強の成果を後でレポートで補ってもよいこととします。					
【履修上の注意】 西洋美術に大いなる好奇心を抱いている学生の参加を望みます。					
【教科書】 特になし					
【参考書等】 テーマごとに授業中に紹介します。					
※備考 特に定員はないが、少人数であることが望ましい。 ゼミ討論の中で興味深く学ぶべき問題が生じた場合、それに寄与する図書を紹介し、並行して学習を促す。また、本テーマにふさわしい展覧会が開催された場合は、それを見学し、討論の対象とする時間も設定したいと考えています。					

教科 No.	2417	授業科目	テーマ演習 7 (祇園祭の楽しみ方 - 美大生編)	単位数	週2コマ 2単位																
担当教員	吉田雅子			開講学期	前期																
履修条件	※学部設定科目 (合計 4 単位まで認定)		履修学年・専攻等	1 年次以上																	
<p>【授業目標】 京都という地の利を生かし、祝祭の現場に実際に身を置く。それにより、美術が社会とどのように寄り添ってきたか体感し、美術と社会との関わりの可能性を考える機会を作りたい。</p> <p>【授業概要】 動く博物館、祇園祭を調べることにより、京都で文化がどのように継承されているか、芸術が人間とどのように関わってきたかを考える。祇園祭を継承する人々を訪ねて、話を聞いたり、仕事場を見せてもらう。宵々山には町に繰り出して、調べた内容を念頭に入れながら、祭りを楽しみたい。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 学生発表</td> </tr> <tr> <td>2. 祇園祭とは</td> <td>10. 学生発表</td> </tr> <tr> <td>3. 学生発表</td> <td>11. 見学</td> </tr> <tr> <td>4. 学生発表</td> <td>12. まとめ</td> </tr> <tr> <td>5. 見学</td> <td>13. まとめ</td> </tr> <tr> <td>6. 学生発表</td> <td>14. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 学生発表</td> <td>15. 祇園祭 (宵々山)へgo!</td> </tr> <tr> <td>8. 見学</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 各自の興味に合わせて祇園祭に関して調べてください。たとえば、山や鉦に施された絵画、染織品、金具、儀式、おみやげのデザイン、町屋のデザイン、パフォーマンスなど何でも良いです。それを発表してみんなで聞いて、祇園祭に関して知識を共有しましょう。この発表内容が採点の基準になります。</p> <p>【履修上の注意】 宵々山は暑いので、帽子、日傘、水などを持参してください。</p> <p>【教科書】</p> <p>【参考書等】</p> <p>※備考 あまり多いと見学等がむずかしくなるので、もし 30 人以上になったら抽選します。 せっかく京都の芸大で勉強しているのに、祇園祭を知らないで卒業する人がいます。とても残念です。もしあなたがまだ祇園祭に行ったことがないなら、この機会に是非一緒に楽しみましょう。ただ enjoy するのではなく、美大生ならではの視点から、それを見つめてみませんか？</p>						1. オリエンテーション	9. 学生発表	2. 祇園祭とは	10. 学生発表	3. 学生発表	11. 見学	4. 学生発表	12. まとめ	5. 見学	13. まとめ	6. 学生発表	14. まとめ	7. 学生発表	15. 祇園祭 (宵々山)へgo!	8. 見学	
1. オリエンテーション	9. 学生発表																				
2. 祇園祭とは	10. 学生発表																				
3. 学生発表	11. 見学																				
4. 学生発表	12. まとめ																				
5. 見学	13. まとめ																				
6. 学生発表	14. まとめ																				
7. 学生発表	15. 祇園祭 (宵々山)へgo!																				
8. 見学																					

教科 No.	2418	授業科目	テーマ演習 8 (歌舞伎に親しむ)	単位数	週2コマ 2単位																
担当教員	定金計次			開講学期	前期																
履修条件	※学部設定科目 (合計 4 単位まで認定)		履修学年・専攻等	1 年次以上																	
<p>【授業目標】 日本を代表する伝統芸能であり、美術・音楽を含む総合芸術と言える歌舞伎について、歴史や表現手法、他分野との係わり等も含めて、多角的に解明・検証することで、その本質を理解し、鑑賞技術を修得して行く。</p> <p>【授業概要】 初めにビデオや DVD に録画した歌舞伎の舞台を見せ、必要な解説を加えることで、初めて触れる人にも基本的な特色を理解出来るようにし、それを基礎として受講者が各自の興味に従って探究したい側面を選び調査や研究を行って貰い、発表と討論を重ね、またやや高度な鑑賞技術を説明することで、更に理解を深まるように努める。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 第 1 回: 授業の進め方の説明; 歌舞伎入門; 歌舞伎の録画鑑賞 (1)</td> <td>9. 第 9 回: 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>2. 第 2 回: 歌舞伎の録画鑑賞 (2); 発表順の決定</td> <td>10. 第 10 回: "</td> </tr> <tr> <td>3. 第 3 回: 発表と討論</td> <td>11. 第 11 回: "</td> </tr> <tr> <td>4. 第 4 回: "</td> <td>12. 第 12 回: "</td> </tr> <tr> <td>5. 第 5 回: "</td> <td>13. 第 13 回: "</td> </tr> <tr> <td>6. 第 6 回: "</td> <td>14. 第 14 回: "</td> </tr> <tr> <td>7. 第 7 回: "</td> <td>15. 第 15 回: 締め</td> </tr> <tr> <td>8. 第 8 回: やや高度な鑑賞技術の説明</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 発表内容と討論における積極性、および出席状況を総合的に判断して評価する。</p> <p>【履修上の注意】 歌舞伎とふれあった経験の有無は問わない。初心者も経験者も興味があれば履修して欲しい。また単独あるいは複数受講者により、少なくとも一回は研究発表を行うこと。最後に討論も含めて発表内容を纏めたレポートを提出すること。</p> <p>【教科書】 なし</p> <p>【参考書等】 必要に応じて、適宜紹介する。</p> <p>※備考 大学院学生の受講も可。受講者定員は、5 人以上 30 人以内。 京都あるいは大阪で歌舞伎の適当な興行があれば、実際の舞台を観る機会を設けたい。</p>						1. 第 1 回: 授業の進め方の説明; 歌舞伎入門; 歌舞伎の録画鑑賞 (1)	9. 第 9 回: 発表と討論	2. 第 2 回: 歌舞伎の録画鑑賞 (2); 発表順の決定	10. 第 10 回: "	3. 第 3 回: 発表と討論	11. 第 11 回: "	4. 第 4 回: "	12. 第 12 回: "	5. 第 5 回: "	13. 第 13 回: "	6. 第 6 回: "	14. 第 14 回: "	7. 第 7 回: "	15. 第 15 回: 締め	8. 第 8 回: やや高度な鑑賞技術の説明	
1. 第 1 回: 授業の進め方の説明; 歌舞伎入門; 歌舞伎の録画鑑賞 (1)	9. 第 9 回: 発表と討論																				
2. 第 2 回: 歌舞伎の録画鑑賞 (2); 発表順の決定	10. 第 10 回: "																				
3. 第 3 回: 発表と討論	11. 第 11 回: "																				
4. 第 4 回: "	12. 第 12 回: "																				
5. 第 5 回: "	13. 第 13 回: "																				
6. 第 6 回: "	14. 第 14 回: "																				
7. 第 7 回: "	15. 第 15 回: 締め																				
8. 第 8 回: やや高度な鑑賞技術の説明																					

教科 No.	2419	授業科目	テーマ演習9 (京都の陶磁と漆)	単位数	週2コマ 2単位
担当教員	伊東徹夫			開講学期	前期
履修条件	※学部設定科目 (合計4単位まで認定)		履修学年・専攻等	1年次以上	
【授業目標】 設定されたテーマについて、みずから調査し、まとめ、発表し、討論において自己の意見を発表できるようになることを目標とする。					
【授業概要】 京都の工芸(陶磁・漆)がテーマである。京都で制作された、あるいは、京都にゆかりのある作家が制作した陶磁、漆などの立体作品(作家論でもよい)について、各自が自由に選択し、調査・研究し発表してもらう。発表者以外の受講者は、質問したり意見を述べて討論をおこなう。					
【授業内容】					
1. 概要説明			9.		”
2. 発表・質問・討論			10.		”
3.	”		11.		”
4.	”		12.		”
5.	”		13.		”
6.	”		14.		”
7.	”		15.	総括	
8.	”				
【評価方法】 出席・発表の水準、質問や討論の水準を総合して評価する。					
【履修上の注意】 必ず1回以上発表しなければならない。自分以外の人々の発表のときも、積極的に質問したり、意見を述べなければならない。履修人数によって、「履修上の注意」などを変更することがありうる。					

教科 No.	2420	授業科目	テーマ演習10 (つちのいえ)	単位数	週2コマ 2単位
担当教員	井上明彦 秋山陽 長谷川直人 栗本夏樹			開講学期	前期
履修条件	※学部設定科目 (合計4単位まで認定)		履修学年・専攻等	1年次以上	
【授業目標】 土・竹・木・草など、自然素材を用いた空間造形を研究・実践するなかで、伝統的なものづくり技術にひそむ知恵と可能性を見直し、造形活動の人類学的地平に視野を広げながら、自らの制作・研究にフィードバックする。					
【授業概要】 地域環境のなかに見いだされる土・竹・木・草などの自然素材や廃材を活かし、屋根葺きや左官など専門職人の方々とも交流しつつ、共有空間の創作を実践する。それを通して、素材・技術の再生/循環と、ひとつひとつと自然をつなぐ空間造形の可能性を探る。随時、関連施設の見学やフィールドワークも行う。					
【授業内容】					
1. ガイダンス:なぜ「つちのいえ」か? (以下、進行状況によって変更が生じる場合がある)			9.	つちのいえをつくる (5)	
2. オルタナティブなアートとデザイン			10.	見学会/フィールドワーク	
3. 国立民族学博物館見学			11.	つちのいえをつくる (6)	
4. 見学会の報告とディスカッション			12.	つちのいえをつくる (7)	
5. つちのいえをつくる (1)			13.	つちのいえをつくる (8)	
6. つちのいえをつくる (2)			14.	つちのいえをつくる (9)	
7. つちのいえをつくる (3)			15.	総括	
8. つちのいえをつくる (4)					
【評価方法】 出席・取組み状況とレポートにより総合的に評価する。					
【履修上の注意】 2008～09年度の自由テーマ研究「自然建築研究」、2010年度のテーマ演習「つちのいえ」を継続するかたちで実施する。内容について、詳しくは、 http://plusap.exblog.jp/ 参照。					
【教科書】					
【参考書等】 ゲルノート・ミンケ著、興石直幸ほか編訳『土・建築・環境—エコ時代の再発見』西村書店、2010年					
※備考 素材の運搬、加工、施工など、作業量が多いが、最終的にはサステナブルデザインの意識と最小限の建築技術が身に付く。授業時間外の作業も生じる場合がある。					

教科 No.	2421	授業科目	テーマ演習 1 1 (芸術と伝承)	単位数	週2コマ 2単位																
担当教員	藤野靖子 森野彰人 安井友幸 横田 学			開講学期	前期																
履修条件	※学部設定科目 (合計 4 単位まで認定)		履修学年・専攻等	1 年次以上																	
<p>【授業目標】 「工芸」「美術」「デザイン」の枠を超え、ものづくりに関わる「技の伝承」に目を向け、小学生を対象としたワークショップの企画・運営をすることを通して、「芸術」とは何か? 「伝承」とは何か? を自らに問いかけ、社会との関わりについて考える機会とする。</p> <p>【授業概要】 「ものづくり」の現場を見学を通し、「技の伝承」をキーワードに受講者各自が具体的な研究テーマを設定する。そのテーマを追求する手段として小学生を対象としたワークショップを企画する。 共通するテーマ設定をした者でグループをつくり、企画を具体化させ、実際にそのワークショップを実施する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス 「技の伝承」について ※受講者が 30 名を超えた場合は抽選を実施する</td> <td>9. グルーピング・グループディスカッション</td> </tr> <tr> <td>2. 技の伝承についての講義 見学研修についての説明</td> <td>10. グループディスカッション</td> </tr> <tr> <td>3. 見学研修 1</td> <td>11. グループ・プレゼンテーション (グループ間交流・情報交換)</td> </tr> <tr> <td>4. 見学研修 2</td> <td>12. ワークショップの具体化に伴う取り組み</td> </tr> <tr> <td>5. 見学研修 3</td> <td>13. 各グループ最終チェック</td> </tr> <tr> <td>6. 研究テーマの設定</td> <td>14. ワークショップの実施</td> </tr> <tr> <td>7. 各自が設定したテーマに沿ったワークショップ企画作成、教育と伝承 (講義; 横田)</td> <td>15. ワークショップの実施</td> </tr> <tr> <td>8. 各自のワークショップ企画案を発表</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 レポート、プレゼンテーション、ワークショップ及び授業への参加度 (積極性) 及び出席状況などを考慮して総合的に評価する。ワークショップの企画・運営を通して学ぶこととなるため、各自の積極的な姿勢と柔軟でユニークなアイデアを求めます。</p> <p>【履修上の注意】 ○ 3 回の見学研修を実施する。見学研修は、原則現地集合・解散とし、交通費などの実費が必要となる。 ○ 小学生を対象としたワークショップの実施は小学校の夏休み中 (7 月下旬～ 8 月上旬) に実施する。</p> <p>【教科書】</p> <p>【参考書等】</p> <p>※備考 定員 30 名。受講者多数の場合は 1 回目の授業で抽選。</p> <p>授業内容「9. グルーピング」以降ワークショップの実施までは基本的にグループ活動となる。</p>						1. ガイダンス 「技の伝承」について ※受講者が 30 名を超えた場合は抽選を実施する	9. グルーピング・グループディスカッション	2. 技の伝承についての講義 見学研修についての説明	10. グループディスカッション	3. 見学研修 1	11. グループ・プレゼンテーション (グループ間交流・情報交換)	4. 見学研修 2	12. ワークショップの具体化に伴う取り組み	5. 見学研修 3	13. 各グループ最終チェック	6. 研究テーマの設定	14. ワークショップの実施	7. 各自が設定したテーマに沿ったワークショップ企画作成、教育と伝承 (講義; 横田)	15. ワークショップの実施	8. 各自のワークショップ企画案を発表	
1. ガイダンス 「技の伝承」について ※受講者が 30 名を超えた場合は抽選を実施する	9. グルーピング・グループディスカッション																				
2. 技の伝承についての講義 見学研修についての説明	10. グループディスカッション																				
3. 見学研修 1	11. グループ・プレゼンテーション (グループ間交流・情報交換)																				
4. 見学研修 2	12. ワークショップの具体化に伴う取り組み																				
5. 見学研修 3	13. 各グループ最終チェック																				
6. 研究テーマの設定	14. ワークショップの実施																				
7. 各自が設定したテーマに沿ったワークショップ企画作成、教育と伝承 (講義; 横田)	15. ワークショップの実施																				
8. 各自のワークショップ企画案を発表																					

教科 No.	2422	授業科目	テーマ演習 1 2 (森村泰昌資料研究)	単位数	週2コマ 2単位																
担当教員	加須屋 明子			開講学期	後期																
履修条件	※学部設定科目 (合計 4 単位まで認定)		履修学年・専攻等	1 年次以上																	
<p>【授業目標】 日本の現代美術を代表する一人として、国際的に活躍を続ける美術作家、森村泰昌についての関連文献資料について、現物にあたることによって、周囲の記事や当時の文化的背景などについても合わせて検討を進め、考察する。</p> <p>【授業概要】 未整理の関連文献資料 (自筆、対談、インタビュー、新聞雑誌掲載記事、図録収録記事、単行本その他、1980 年代初頭から現在まで) のデータベースの構築及びデータの検索方法、活用する方法について検討し、アーカイブとしての活用をめざす。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 文献資料データ確認とデータベースの構築</td> </tr> <tr> <td>2. 文献資料データの確認とデータ記録</td> <td>10. "</td> </tr> <tr> <td>3. "</td> <td>11. "</td> </tr> <tr> <td>4. "</td> <td>12. "</td> </tr> <tr> <td>5. "</td> <td>13. "</td> </tr> <tr> <td>6. "</td> <td>14. まとめ 1 資料の活用について 1</td> </tr> <tr> <td>7. 美術館資料データベースの実際 見学 1</td> <td>15. まとめ 1 資料の活用について 2</td> </tr> <tr> <td>8. 美術館資料データベースの実際 見学 2</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 平常点を重視する。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>【教科書】 授業中に指示する。</p>						1. ガイダンス	9. 文献資料データ確認とデータベースの構築	2. 文献資料データの確認とデータ記録	10. "	3. "	11. "	4. "	12. "	5. "	13. "	6. "	14. まとめ 1 資料の活用について 1	7. 美術館資料データベースの実際 見学 1	15. まとめ 1 資料の活用について 2	8. 美術館資料データベースの実際 見学 2	
1. ガイダンス	9. 文献資料データ確認とデータベースの構築																				
2. 文献資料データの確認とデータ記録	10. "																				
3. "	11. "																				
4. "	12. "																				
5. "	13. "																				
6. "	14. まとめ 1 資料の活用について 1																				
7. 美術館資料データベースの実際 見学 1	15. まとめ 1 資料の活用について 2																				
8. 美術館資料データベースの実際 見学 2																					

教科 No.	2423	授業科目	テーマ演習 1 3 (つちのいえ)	単位数	週2コマ 2単位																
担当教員	井上明彦 秋山陽 長谷川直人 栗本夏樹			開講学期	後期																
履修条件	※学部設定科目 (合計 4 単位まで認定)		履修学年・専攻等	1 年次以上																	
<p>【授業目標】 土・竹・木・草など、自然素材を用いた空間造形を研究・実践するなかで、伝統的なものづくり技術にひそむ知恵と可能性を見直し、造形活動の人類学的地平に視野を広げながら、自らの制作・研究にフィードバックする。</p> <p>【授業概要】 前期に続いて、素材・技術の再生／循環と、ひとつひとつと自然をつなぐ空間造形の可能性を探る。後期はつちのいえの創造的活用方法と意義も研究していく。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス：なぜ「つちのいえ」か？ (以下、進行状況によって変更が生じる場合がある)</td> <td>9. つちのいえをつくる (5)</td> </tr> <tr> <td>2. オルタナティヴなアートとデザイン</td> <td>10. 見学会／フィールドワーク</td> </tr> <tr> <td>3. 左官作業現場見学</td> <td>11. つちのいえをつかう (1)</td> </tr> <tr> <td>4. 見学会の報告とディスカッション</td> <td>12. つちのいえをつかう (2)</td> </tr> <tr> <td>5. つちのいえをつくる (1)</td> <td>13. つちのいえをつかう (3)</td> </tr> <tr> <td>6. つちのいえをつくる (2)</td> <td>14. つちのいえをつかう (4)</td> </tr> <tr> <td>7. つちのいえをつくる (3)</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. つちのいえをつくる (4)</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 出席・取組み状況とレポートにより総合的に評価する。</p> <p>【履修上の注意】 2008～09 年度の自由テーマ研究「自然建築研究」、2010 年度のテーマ演習「つちのいえ」を継続するかたちで実施する。内容について、詳しくは、http://plusap.exblog.jp/ 参照。</p> <p>【教科書】</p> <p>【参考書等】 ゲルノート・ミンケ著、興石直幸ほか編訳『土・建築・環境—エコ時代の再発見』西村書店、2010 年</p> <p>※備考 素材の運搬、加工、施工など、作業量が多いが、最終的にはサステナブルデザインの意識と最小限の建築技術が身に付く。授業時間外の作業も生じる場合がある。</p>						1. ガイダンス：なぜ「つちのいえ」か？ (以下、進行状況によって変更が生じる場合がある)	9. つちのいえをつくる (5)	2. オルタナティヴなアートとデザイン	10. 見学会／フィールドワーク	3. 左官作業現場見学	11. つちのいえをつかう (1)	4. 見学会の報告とディスカッション	12. つちのいえをつかう (2)	5. つちのいえをつくる (1)	13. つちのいえをつかう (3)	6. つちのいえをつくる (2)	14. つちのいえをつかう (4)	7. つちのいえをつくる (3)	15. 総括	8. つちのいえをつくる (4)	
1. ガイダンス：なぜ「つちのいえ」か？ (以下、進行状況によって変更が生じる場合がある)	9. つちのいえをつくる (5)																				
2. オルタナティヴなアートとデザイン	10. 見学会／フィールドワーク																				
3. 左官作業現場見学	11. つちのいえをつかう (1)																				
4. 見学会の報告とディスカッション	12. つちのいえをつかう (2)																				
5. つちのいえをつくる (1)	13. つちのいえをつかう (3)																				
6. つちのいえをつくる (2)	14. つちのいえをつかう (4)																				
7. つちのいえをつくる (3)	15. 総括																				
8. つちのいえをつくる (4)																					